

# へきなん地域福祉ハッピープラン

## 第2次碧南市地域福祉計画



平成28年3月

碧南市・碧南市社会福祉協議会

## 地域の課題を自分ごととして捉えるということ

日本福祉大学 社会福祉学部 准教授 野尻 紀恵

2011年3月11日に東日本大震災が発災してからもうすぐ5年。一瞬にして失われた多くの人のいのち、消え去った日常生活。どれ程の悲しみが犠牲となった土地にあふれたことでしょうか。しかし、阪神淡路大震災を経験した私は、被災した地の人々が助け合い、立ち上がることを知っていたし、そう信じていました。今こそ「いのち」を語り、  
「地域」を見つめること、「福祉観」を豊かに育むことが大切だと5年前に再認識しました。

誰もが自分らしく地域で生きていきたいと思っています。幸せに生きていくことができると思っているのです。あまり疑わずに。ところが、そうもいかない現実が目の前に横たわってくることもあります。そんな経験をする、それも地域なのだと思います。今年の1月17日は寒い寒い一日でした。21年前の1月17日も神戸では珍しく雪がチラチラしていたことを思い出しました。神戸市長田区のまちに21年目の追悼の灯りが灯される、その灯りをみながら21年目の長田区の地に立っていました。思いもよらない地震と、想像もできなかった被害。いつまで続くともわからない混乱の中で、生活を続けるために、手を携え合った日、「1・17」。私自身は、学校が避難所になるということは、学校が地域になるということだ、そういう発見をしました。その日から、それまで意識していなかった「いのち」を語り、あまり顧みなかった「地域」を見つめることになりました。私自身は、21年前のこの日、地域で生きていくということの大切さと、人と繋がることの喜びに気づかされたのです。それから21年、私はどれほど地域から、地域に生きる仲間から、地域に存在するありとあらゆる課題から学んできたことでしょうか。こんな私自身の個人的な体験から、人は地域で主体的に生き、活動することによって、互いに学び合い、人間としての豊かな成長に繋がるのだということを確認しています。

「地域の課題」を知ること、「地域の課題」と対話すること、その学び合いなくしては「地域」で共に生きていくことは困難です。また、地域に生きる人としての絶えざる努力と学びなくしては、地域は成長できないのです。制度の枠では支えられない課題が沢山表出する「地域」という場では、「ひと」が「ひと」に出会い、知り合い、支え合うことが大切なのです。それは、「地域の課題」を「自分ごととして捉える」ことです。

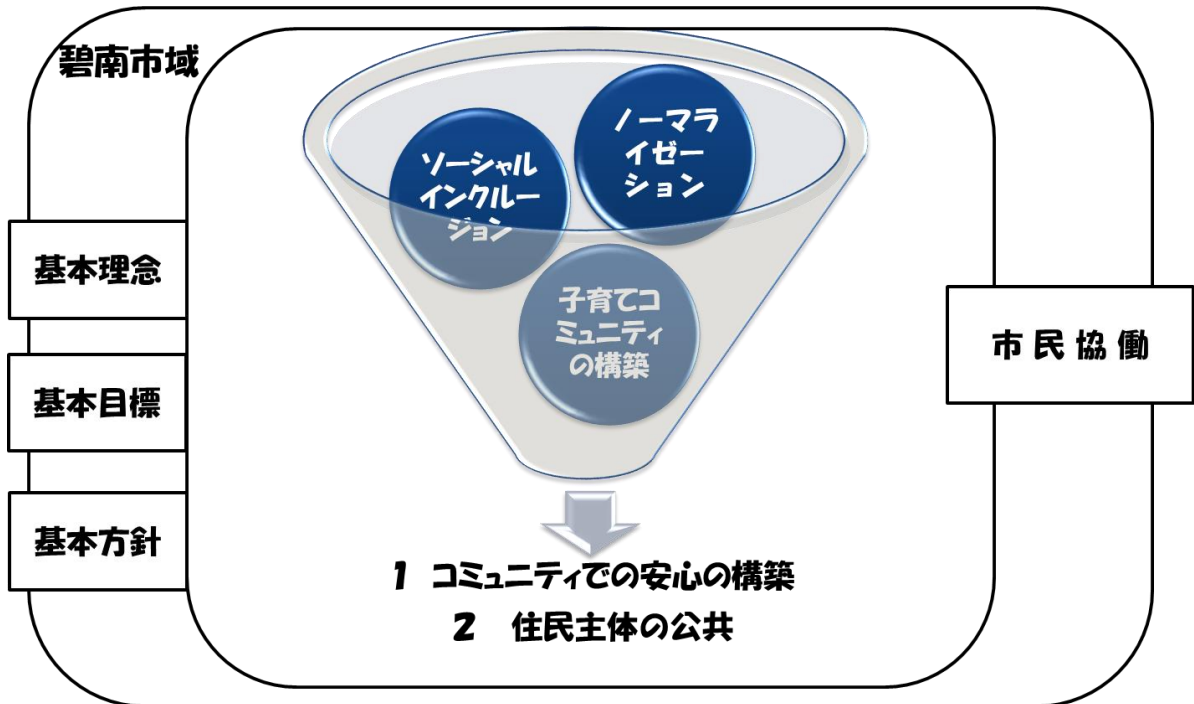
「いのち」を語り、「地域」を見つめること、豊かな「福祉観」を育むことを大切にできる、そんな「まち」づくりこそが地域福祉なのではないでしょうか。

## 地域福祉計画ー地域の出来事を自分ごとに一

「ふくし」とは 「ふ」だんの 「く」らしの 「し」あわせ

暮らしやすい地域社会にするには、ひとが未来の地域を創り、ひとの声が響く社会にすることが重要です。ひとが育てばまちも育ちます。また、ボランティアなどの民間公益活動は、行政の穴埋め的な存在ではなく、私たちが作り上げる地域社会となる大きな可能性を秘めているのです。

### 計画の取り組みイメージ



ソーシャルインクルージョン：孤立しがちな人も受け入れること。

ノーマライゼーション：誰もが人間らしく生活できること。

## はじめに

碧南市では、平成18年度に「へきなん地域福祉ハッピープラン（碧南市地域福祉計画）」を策定し、「ふれあい ささえあい みんなの笑顔が輝くまち へきなん」を基本理念とし、高齢者・障害者・子どもなど地域を構成しているすべての住民において、自助、共助、公助を基本的な考え方とし、相互に協力しあうことにより、総合的に福祉のまちづくりを推進してまいりました。



しかしながら、今日の地域社会を取り巻く環境につきましては、核家族化や少子高齢化の急速な進展、生活環境や価値観が多様化するなど大きく変化し、これまで家庭や地域で解決できていた孤立や虐待などの課題が表面化するなど、家庭や地域でのつながりが徐々に薄れているように感じられます。

このような地域社会の環境変化に伴う課題に対応し、誰もが安心してそれぞれの住み慣れたところで暮らすためには、そこで暮らす市民の皆様が主体的に関わり、地域の組織、行政、社会福祉協議会等が連携、協力して課題を解決する考え方が今後重要となります。この考え方が「地域福祉」であり、一言で申し上げますと「地域の出来事を まず自分事として考える。」こととなります。

このため、さらなる本市の地域福祉の推進に向け、これまで取り組んでまいりました第1次計画の成果を踏まえ、必要な見直しを行い、「地域で築く つながり 支えあうまち へきなん」を基本理念とした「第2次碧南市地域福祉計画」を策定いたしました。

この計画は、市と社会福祉協議会の協働による計画づくりを一步進め、これまでそれぞれ策定していました「地域福祉計画」と「地域福祉活動計画」を一体的に策定することとし、「福祉の意識を高める環境づくり」、「世代間や地域での交流の機会づくり」、「地域福祉活動を支える人づくり」、「多様化する福祉課題に対応する支援体制づくり」、「安心・安全を高める地域づくり」の5つの基本目標と基本方針を定め、地域福祉をより効果的に推進してまいります。

最後になりましたが、本計画の策定にあたりまして、熱心にご協議を賜りました碧南市地域福祉計画策定委員会の皆様をはじめ、市内6地区で開催しました地域福祉懇談会にご出席いただきました市民の皆様、アンケート調査にご協力いただきました市民の皆様により感謝申し上げます。

平成28年3月

碧南市長 補 宜田政信

## はじめに

平素は、碧南市社会福祉協議会の事業に格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

社会福祉協議会では、これまでに3次にわたり地域福祉活動計画を策定し、住み慣れた地域で誰もが安心して暮らせるよう、「ふれあいのまち やさしさのまち いたわりのまち へきなん」をキャッチフレーズに「安心して暮らせるまち碧南」を実現するため、地域における福祉・保健・医療の関係機関・団体及び地域住民と連携を図りながら、地域福祉の推進に取り組んでまいりました。



しかしながら、急速な少子高齢化や核家族化の進行、価値観の多様化、人口減少社会の到来など社会情勢は大きく変化してきております。地域社会や家庭の絆が希薄化し、かつて有していた相互扶助の機能が薄れ、介護、子育て問題、社会的孤立、自殺や虐待、引きこもりなど様々な社会問題が起きています。

このような状況の中、社会福祉協議会では新たな地域福祉活動計画の策定をするにあたり、地域福祉をより効果的に推進するため、碧南市が策定する「第2次碧南市地域福祉計画」と協働で「第4次碧南市社協地域福祉活動計画」を一体的に策定することとしました。

この計画を策定するにあたり、地域の課題を抽出し地域のネットワークシステムを作りながら住民が主体となって取り組む計画の策定を行うため、地域福祉懇談会を市内6地区で開催し、連絡委員や民生委員児童委員などの方々に加え、老人クラブやPTA、子ども会や青少年育成推進員の方など、地域を代表するの方々にご協力いただきました。

新たな計画では、「地域の出来事をまず自分事として考える」ことを基本に地域のネットワークにより「住み慣れた地域で誰もが安心して暮らせるまちづくり」を目指しておりますので、より一層のご理解とご協力をお願いします。

最後に、この計画を策定するにあたりご尽力いただきました策定委員、地域福祉懇談会にご参加頂きました地域の方々及び関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。

平成28年3月

社会福祉法人 碧南市社会福祉協議会

会長 杉浦三代枝

# 目次

## 第1部 計画の概要

第1章 計画の概要	1
1. 地域福祉とは	1
2. 計画策定の背景	2
3. 計画の位置づけ	4
4. 計画の期間	7
5. 計画の策定体制	7
第2章 碧南市の状況	8
1. 碧南市の現状	8
2. 市民意識調査結果	15
3. 地域福祉懇談会	21
4. 課題の整理	26

## 第2部 基本計画

第1章 基本理念・基本目標	27
1. 基本理念	27
2. 基本目標	27
3. 施策の体系	29
第2章 基本計画	30
1. 基本目標1 福祉の意識を高める環境づくり	30
2. 基本目標2 世代間や地域での交流の機会づくり	36
3. 基本目標3 地域福祉活動を支える人づくり	38
4. 基本目標4 多様化する福祉課題に対応する支援体制づくり	40
5. 基本目標5 安心・安全を高める地域づくり	46
第3章 計画の推進	52
1. 計画の推進	52

## 資料編

1) 平成27年度碧南市地域福祉計画策定委員会委員名簿	53
2) 碧南市地域福祉計画策定委員会規程	54
3) 計画策定の経緯	55
4) 各地区地域福祉懇談会実施録	57

## 第1部 計画の概要

## 第1章 計画の概要

### 1. 地域福祉とは

「福祉」というと、高齢者福祉や障害者福祉、児童福祉といった対象者ごとに分かれているものを思い浮かべることが一般的でした。これら分野別の福祉は、行政がその対象者ごとに必要な福祉サービスを提供するもので、「特定の人のため」という意味合いが強いものでした。しかし、福祉サービスのような支援を必要としているのは分野で分けられた特定の人だけではありません。地域に暮らす誰もが日頃の生活の中で何等かの問題を抱え、簡単な手助けを必要としています。

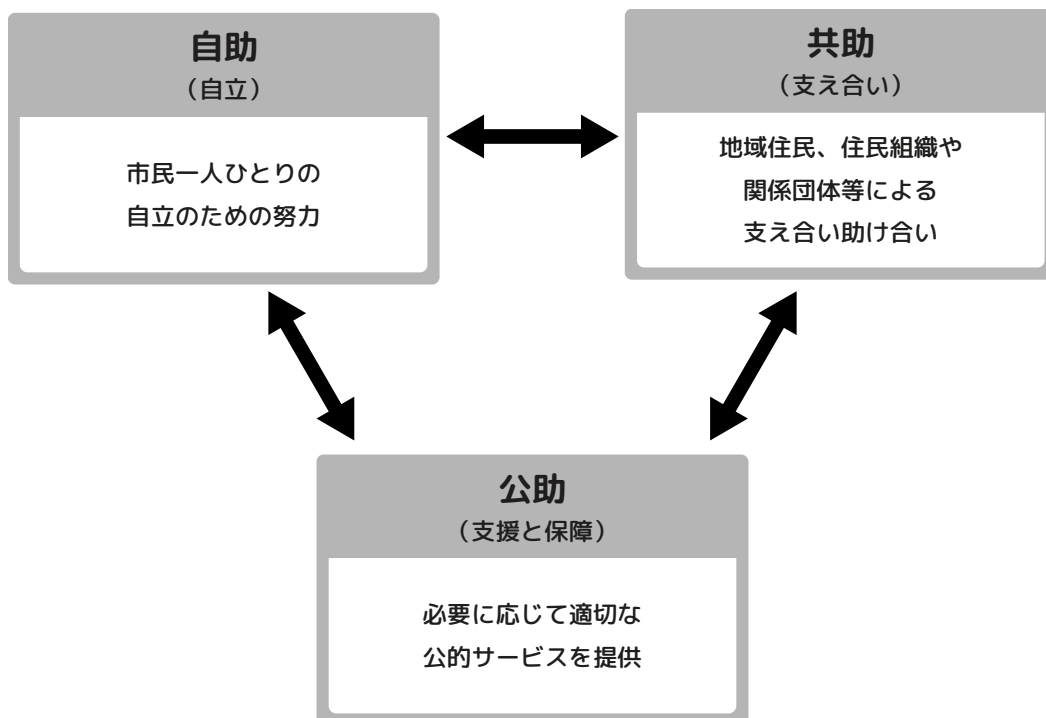
誰もが地域で安心して暮らしていくためには、行政が提供する福祉サービスだけでは不十分であり、日頃の身近な生活の問題には、地域の住民同士によるちょっとした手助けで解決できることもたくさんあります。

そこで、地域福祉の概念は、次のような視点での取り組みに分けられています。

- 自助：日頃身の回りで起こる問題は、まず個人や家族の努力で解決
- 共助：個人や家族内で解決できない問題は、隣近所の力やボランティア、NPO等の活動で解決
- 公助：地域で解決できない問題は、行政で解決

といった重層的な取り組みによって支援されています。すなわち、市民相互の助け合い・支え合いの力があり、「住み慣れた地域で誰もが安心して暮らせるよう、市民が主体的に行う取り組み」、「地域における助け合いの仕組み」が『地域福祉』と言えます。

#### 【地域福祉の概念】





## 2. 計画策定の背景

### 1) 国の動き

国では、平成12年に「社会福祉事業法」が「社会福祉法」に改められ、「地域福祉の推進」が基本理念の一つとして位置づけられ、市町村において地域福祉計画を策定することが明文化されました。さらに、「介護保険法」が施行されたことを始めとして、従来の福祉サービスは措置制度から契約制度へと移行し、利用者がサービスを選択し、契約に基づいてサービスを利用する仕組みとなりました。

#### ■近年の福祉に関する主な法律等の状況

成立年	法律等の状況
平成9年	介護保険法
平成12年	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律の公布・施行 ・「社会福祉事業法」から「社会福祉法」に法名改正されるとともに、「地域福祉の推進」と「地域福祉計画」が法律に位置づけ。 児童虐待の防止等に関する法律（児童虐待防止法）
平成14年	「市町村地域福祉計画及び都道府県地域福祉支援計画策定指針の在り方について（一人ひとりの地域住民への訴え）」（社会保障審議会福祉部会） 「市町村地域福祉計画及び都道府県地域福祉支援計画の策定について」の通知
平成15年	次世代育成支援対策推進法 「地域福祉計画策定への協力並びに地域福祉活動計画推進における社会福祉協議会の取り組み方針」（全国社会福祉協議会）
平成17年	障害者自立支援法 高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律（高齢者虐待防止法）
平成18年	災害時要援護者の避難支援ガイドライン策定
平成19年	「市町村地域福祉計画の策定について」の通知（厚生労働省） 「要援護者の支援方策について市町村地域福祉計画に盛り込むべき事項」の通知
平成20年	「地域における『新たな支え合い』を求めて－住民と行政の協働による新しい福祉－」（これからの地域福祉のあり方に関する研究会） ・地域における「新たな支え合い（共助）」を確立するという地域福祉の役割と地域福祉を推進するための具体的な条件整備等の位置づけ。
平成24年	障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法） 障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律（障害者虐待防止法） 子ども・子育て支援法
平成25年	生活困窮者自立支援法

## 2) 碧南市の動き

地域福祉とは、住み慣れた地域で、お互いが支え合い助け合うことにより、誰もがそれぞれの個性を活かし、地域の一員として生活を送ることができる地域社会をつくることです。

碧南市では平成18年に「碧南市地域福祉計画」を策定し、地域福祉の推進に努めてきました。碧南市社会福祉協議会では平成18年に「第2次碧南市社協地域福祉活動計画」を、平成23年に第3次計画が策定され、市民、様々な関係団体、社会福祉協議会及び市の協働により地域福祉の推進を図ってきました。

また、市のまちづくりに関する基本的事項を定め、市民及び行政がそれぞれの役割及び責務を果たし、地域で人と人がつながることにより、生きがいや幸せを感じることでできる社会を実現することを目的とした「碧南市協働のまちづくりに関する基本条例」が、平成25年4月1日に施行されました。

その一方で、全国的に進展する少子高齢化や人口減少社会の到来、東日本大震災の発生等により、「地域の絆」や「人と人とのつながり」の大切さを再認識させられるとともに、地域福祉の担い手不足や地域住民の孤立に関する諸問題等新たな課題も表面化しています。

これらの課題に対応するためには、市民、様々な関係団体、社会福祉協議会及び市の支援・連携体制を強化し、お互いの役割を果たす中で地域福祉を推進する必要があると、本市の地域福祉をより効果的に推進するため、平成28年4月から「第2次碧南市地域福祉計画」及び「第4次碧南市社協地域福祉活動計画」を一体的に策定することとしました。

なお、計画名も「第2次碧南市地域福祉計画」に決定しました。

自ら解決できる身近な課題は自分で解決する（自助）、個人での解決が難しい課題は隣近所や地区等で協力して解決する（共助）、市民だけでは解決が難しい問題は行政が解決にあたる（公助）といった役割分担のもと、市民と市民、市民と行政とがお互いの意見を尊重し合い、連携・協力してまちづくりを行うことです。

今回の計画では、こうした基本的な考え方を地域福祉に取り込みながら、計画策定を行いました。



### 3. 計画の位置づけ

#### 1) 地域福祉計画と地域福祉活動計画策定の位置づけ

市の「碧南市地域福祉計画」では、高齢者・障害者・子ども等地域を構成しているすべての住民において、「自助（自立）」、「共助（支え合い）」、「公助（支援と保障）」を基本的な考え方とし、基本理念を「ふれあい ささえあい みんなの笑顔が輝くまち へきなん」と設定し、基本理念の実現を目指してきました。

今回、計画の実践結果を検証すると、地域での支え合いや助け合いの推進を図る「地域ケア」や地域福祉を担う人材育成、地域福祉活動の機会づくりを行う「地域福祉の推進」が特に達成度が低い結果となりました。

一方、社会福祉協議会の「第3次碧南市社協地域福祉活動計画」では、平成23年度より西端地区をモデルに、「自分たちの地区で必要な地域住民による福祉活動」を考え、実施していくための取り組みとして地域福祉委員会を開催し、①地域の交流の場づくり、②見守りの仕組みづくりに取り組んでいます。また地域の交流の場づくりでは、西端保育園を拠点に、西端福祉こども応援団が毎月1回活動をしています。今後、地域福祉における住民への理解やリーダーの育成支援を継続して実施する必要があります。

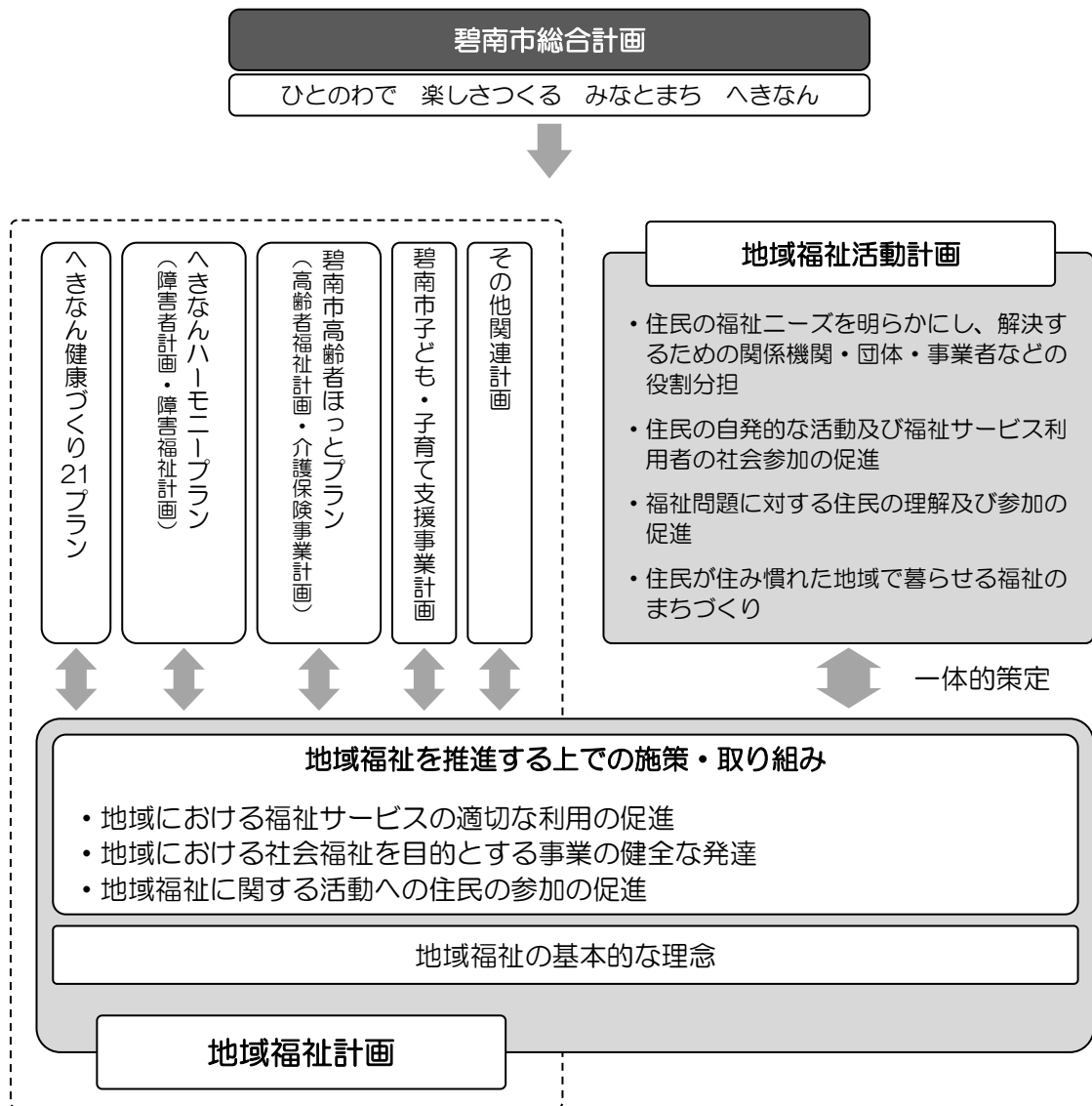
このため、市と社会福祉協議会の協働による計画づくりを一步進め、計画策定過程やその内容を一部共有し、地域福祉計画の一体的策定を次のような考え方で進めて行きます。

○市が策定する地域福祉計画と社会福祉協議会が策定する地域福祉活動計画は、ともに地域福祉の推進を目指すものであり、その策定を通して住民・事業者・社会福祉協議会・行政の協働を推進します。このため内容を一部共有化したり、それぞれの計画の実現を支援するための施策を盛り込む等、相互に連携を図ります。

○地域福祉計画と地域福祉活動計画は、碧南市における地域福祉の推進を目的として互いに補完・補強し合う関係にあります。このため、住民の福祉意識向上、住民相互の関係形成、地域福祉活動への住民参加促進等、計画策定自体が豊かで住みよい地域社会づくりにつながります。

また、2つの計画は、ともに地域住民等の参加を得て策定されるものであり、その策定過程を通して、行政と社会福祉協議会の協働による一体的な策定の必要性を示しています。

## 2) 他計画との関連



## 3) 社会福祉協議会の概要

社会福祉法の中に「地域福祉の推進を図ることを目的とする団体（第109条）」として位置づけられている社会福祉協議会は、次の事業を行う地域福祉活動の推進組織として、その中核的な役割が求められています。

- ①社会福祉を目的とする事業の企画及び実施
- ②社会福祉に関する活動への住民の参加のための援助
- ③社会福祉を目的とする事業に関する調査、普及、宣伝、連絡、調整及び助成等

碧南市における社会福祉事業その他の社会福祉を目的とする事業の健全な発達及び社会福祉に関する活動の活性化により、地域福祉の推進を図ることを目的として活動しています。

つまり、行政の手の行き届かない、社会福祉に関する様々な事業を行って、地域住民が安心して暮らせるまちを目指しています。

■社会福祉協議会事業内容

各種事業	サービス・事業内容
法人運営事業	法人運営事業
	社会福祉積立金事業
	企画・広報事業
地域福祉活動事業	福祉のまちづくり事業
	地域福祉活動事業
	ボランティア活動事業
共同募金配分金事業	一般募金配分金事業
	歳末たすけあい配分金事業
資金貸付事業	生活福祉資金貸付事業
	くらし資金貸付事業
	愛の援護資金貸付事業
福祉・介護サービス事業	訪問介護事業
	障害福祉サービス事業
	居宅介護支援事業
	在宅介護支援センター事業
	在宅介護者リフレッシュ事業
	高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業
保育園運営事業	荒子保育園
	西端保育園
	大浜保育園
	棚尾保育園
	新川保育園
子育て支援事業	あらこ子育て支援センター
	にしばた子育て支援センター
	たなお子育て支援センター
	ららくるにしばた子育て支援センター
	たなおっこ子育て支援センター
	とーぶ子育て支援センター
	こころつくしんかわ子育て支援センター
	児童クラブ
	棚尾児童センター
	東部児童センター
地域福祉事業	相談支援事業
	障害者就労相談員設置事業
	就労意欲喚起支援等事業
	日常生活自立支援事業
	特定相談支援事業
	一般相談支援事業
	障害児相談支援事業
	生活困窮者自立相談支援事業
各種センター・施設運営事業	心身障害者福祉センター
	碧南社協地域包括支援センター
	碧南市こどもプラザららくるにしばた
	へきなん福祉センターあいくる
	碧南市こどもプラザこころつくしんかわ
売店収益事業	自動販売機・バックお茶の販売等

## 4. 計画の期間

計画の対象期間は、平成28年度～平成32年度の5年間とします。

	平成18年度	平成23年度	平成27年度	平成28年度	平成32年度
地域福祉計画	第1次地域福祉計画			第2次地域福祉計画	
地域福祉活動計画	第2次活動計画	第3次地域福祉活動計画			

## 5. 計画の策定体制

この計画では、誰もが福祉の担い手であり、受け手となります。このため、計画づくりの段階においても住民参加を心掛けていく必要があることから、次のような体制で計画の策定を進めました。

### 1) 碧南市地域福祉計画策定委員会

各種団体の代表者、福祉関係者、関係行政機関の代表者及び学識経験者で構成し、地域福祉に関わる様々な分野からの意見提案を計画に反映しました。

### 2) 碧南市地域福祉計画作業部会

福祉課長を部会長とし、部会員は関係課及び社会福祉協議会の職員にて構成し、計画策定の進め方の検討、課題の検討、計画案の作成・検討を行いました。

### 3) 地域福祉懇談会

地域住民が意見交換を行う中で、地域福祉の課題や特性を共有し、住民自らが解決策を検討することを狙いとして地域福祉懇談会を開催しました。今回、市内6地区（新川地区、中央地区、大浜地区、棚尾地区、旭地区、西端地区）で各地区2回開催しました。会議は、各地区で4～6のグループに分かれて、ワークショップ形式で実施しました。

### 4) 市民意識調査

計画を策定するための基礎資料を得ることを目的として、平成26年に実施した碧南市市政アンケート結果から分析を進めました。

また、先回計画策定時の平成17年に実施した意識調査と比較し、ニーズの変化等についても調査を行いました。

## 第2章 碧南市の状況

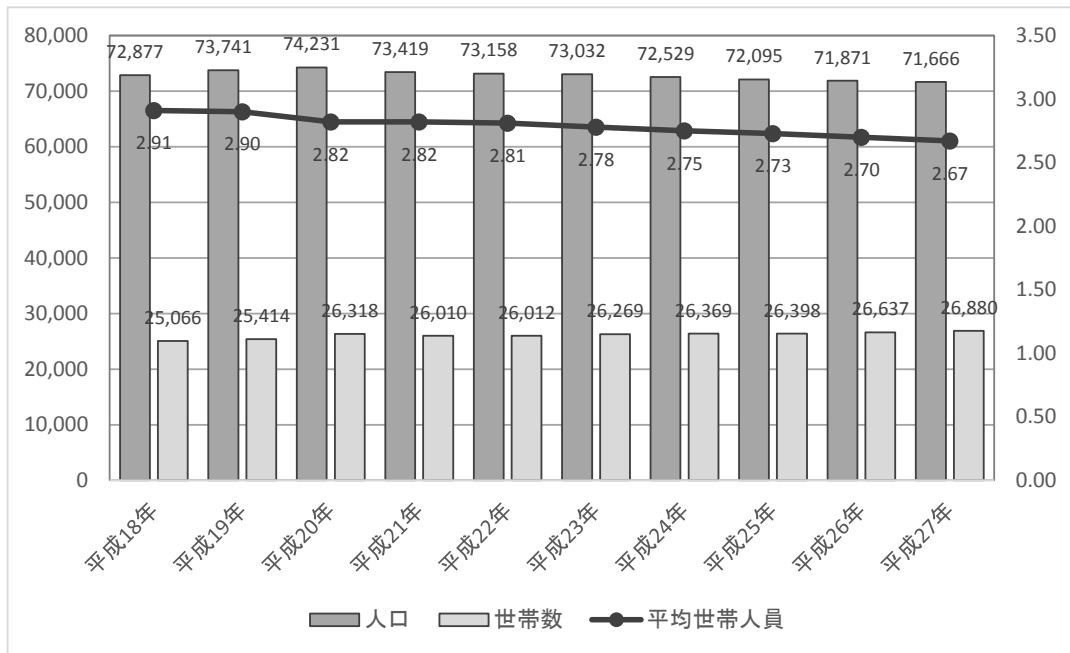
### 1. 碧南市の現状

#### 1) 人口

碧南市の人口は、平成20年以降減少傾向にあり、平成27年9月末現在の人口は、71,666人となっている一方で、世帯数は増加傾向にあり、26,880世帯となっています。

平均世帯人員は、年々減少しており、平成27年では約2.7人/世帯と核家族化が進行しています。

人口・世帯数の推移



資料：西三河の統計（平成18年から平成26年までは10月1日現在）

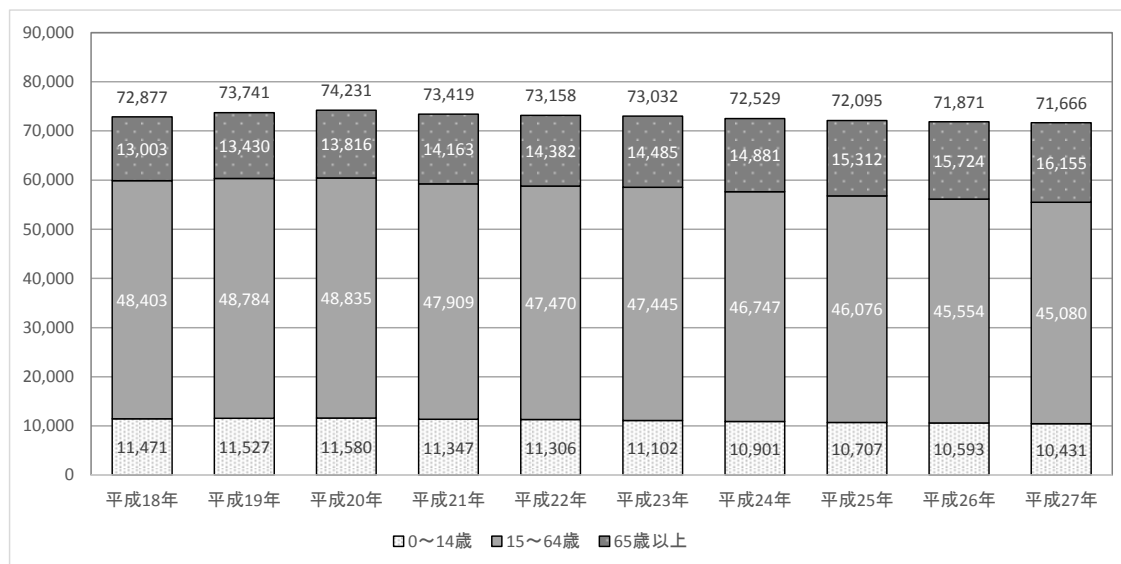
資料：市民課（平成27年9月末現在）

## 2) 年齢別人口の推移

年齢3区分別人口構成をみると、人口は平成20年から減少傾向になっています。

65歳以上の人口では、若干増加傾向にある一方で、0歳～14歳では減少傾向となっており、少子高齢化の進展が顕著になっています。

年齢3区分別人口構成の推移



資料：西三河の統計（平成18年から平成26年までは10月1日現在）

資料：市民課（平成27年9月末現在）

西三河地域における他都市との比較においても、大きな違いはありませんが、65歳以上の割合が一番多い西尾市（23.0%）について、碧南市が2番目に多く、21.9%となっています。

西三河地区の年齢別人口

	世帯数	人口						65歳以上 割合
		総数	性別		年代別			
			男	女	0～14歳	15～64歳	65歳以上	
<b>碧南市</b>	<b>26,637</b>	<b>71,871</b>	<b>36,715</b>	<b>35,156</b>	<b>10,593</b>	<b>45,554</b>	<b>15,724</b>	<b>21.9%</b>
岡崎市	151,799	379,918	191,910	188,008	57,272	243,983	78,663	20.7%
刈谷市	62,384	148,582	78,011	70,571	22,369	99,103	27,110	18.2%
豊田市	170,117	422,181	219,744	202,437	60,033	274,153	87,995	20.8%
安城市	71,238	184,780	94,710	90,070	29,541	120,335	34,904	18.9%
西尾市	59,627	170,166	85,663	84,503	24,862	106,099	39,205	23.0%
知立市	30,283	70,671	37,083	33,588	10,548	47,047	13,075	18.5%
高浜市	18,105	46,301	23,967	22,334	7,609	30,122	8,570	18.5%
みよし市	22,440	59,616	30,584	29,032	10,583	39,406	9,627	16.1%
幸田町	13,913	39,332	19,798	19,534	6,772	24,925	7,635	19.4%
<b>西三河総数</b>	<b>626,543</b>	<b>1,593,418</b>	<b>818,185</b>	<b>775,233</b>	<b>240,182</b>	<b>1,030,727</b>	<b>322,508</b>	<b>20.2%</b>

資料：西三河の統計（平成26年10月1日現在）



### 3) 地区別の少子高齢化の状況

地区別に年齢3区分別人口をみると、平成17年では、棚尾地区（19.6%）が最も高齢化が進んでいる地区で、次いで新川地区（19.5%）、大浜地区（18.1%）でありましたが、平成27年では、平成17年で4番目だった西端地区が25.0%となっており、最も高齢化が進んでいる地区になっています。次いで、新川地区（23.3%）、棚尾地区（23.2%）となっています。

平成17年で6地区の中で14.3%と最も低かった旭地区が、平成27年には20.1%と他の地区同様に20%以上となっています。

これに対して、0～14歳の年齢層の人口割合は、各地区とも減少していますが、その中で棚尾地区は、わずかに増加傾向となりました。

地区別年齢3区分別人口

		新川		中央		大浜		棚尾		旭		西端		全体	
		人口	割合	人口	割合	人口	割合	人口	割合	人口	割合	人口	割合	人口	割合
平成17年	0～14歳	2,333	15.0%	1,487	15.6%	2,464	15.3%	892	14.5%	3,027	18.5%	1,279	15.6%	11,482	16.0%
	15～64歳	10,202	65.5%	6,523	68.6%	10,724	66.6%	4,052	65.9%	11,029	67.2%	5,557	67.6%	48,087	66.8%
	65歳以上	3,032	19.5%	1,505	15.8%	2,913	18.1%	1,202	19.6%	2,336	14.3%	1,384	16.8%	12,372	17.2%
	計	15,567	100.0%	9,515	100.0%	16,101	100.0%	6,146	100.0%	16,392	100.0%	8,220	100.0%	71,941	100.0%
平成27年	0～14歳	2,227	14.4%	1,371	14.2%	2,181	13.8%	913	15.0%	2,572	15.7%	1,167	14.2%	10,431	14.6%
	15～64歳	9,618	62.3%	6,088	62.9%	10,096	63.7%	3,768	61.8%	10,534	64.2%	4,976	60.7%	45,080	62.9%
	65歳以上	3,601	23.3%	2,217	22.9%	3,574	22.5%	1,413	23.2%	3,297	20.1%	2,053	25.0%	16,155	22.5%
	計	15,446	100.0%	9,676	100.0%	15,851	100.0%	6,094	100.0%	16,403	100.0%	8,196	100.0%	71,666	100.0%

資料：碧南の統計（平成17年3月末現在）

資料：市民課（平成27年9月末現在）

碧南市全体では、平成17年では0～14歳が16.0%、65歳以上が17.2%、平成27年では、0～14歳が14.6%、65歳以上が22.5%となっています。

0～14歳で全体と各地区を比較すると、棚尾地区と旭地区が全体よりも高い傾向にあり、他4地区でも全体とほぼ同様です。

65歳以上で全体と各地区を比較すると、新川地区、棚尾地区及び西端地区が全体よりも高い傾向にあり、他3地区でも全体とほぼ同様です。

#### 4) 民生費の推移

碧南市の民生費は年々増加傾向にあります。また、一般会計に占める割合も増加傾向にあります。

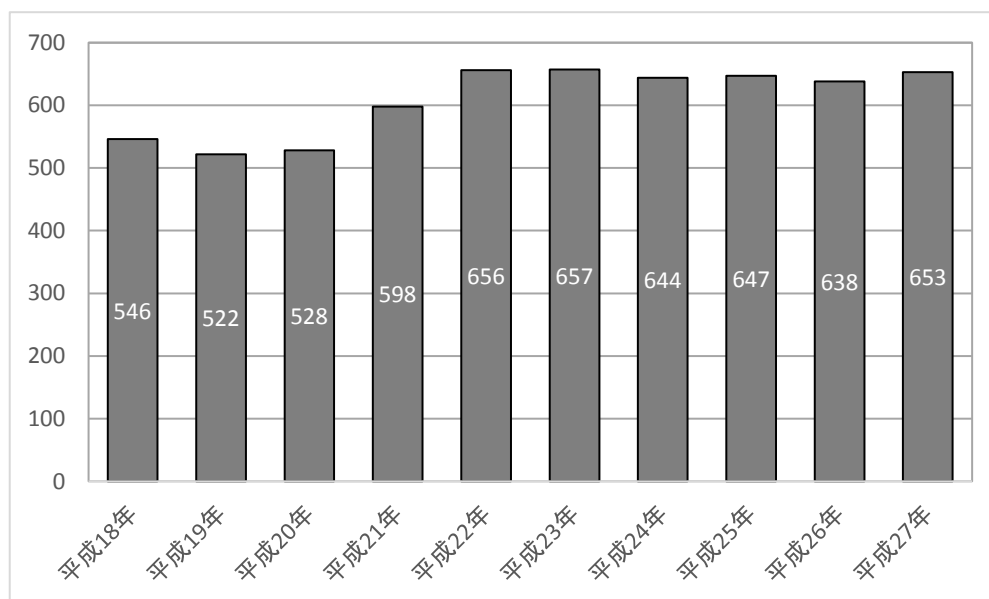
民生費及び一般会計における割合（当初予算）

年度	一般会計(千円)	民生費(千円)	民生費割合
平成 18 年度	27,751,844	6,159,692	22.2%
平成 19 年度	29,835,823	6,235,816	20.9%
平成 20 年度	28,930,724	6,813,409	23.6%
平成 21 年度	29,649,413	7,182,999	24.2%
平成 22 年度	27,108,669	8,009,607	29.5%
平成 23 年度	27,870,654	8,478,553	30.4%
平成 24 年度	27,404,458	9,130,161	33.3%
平成 25 年度	25,674,576	9,291,555	36.2%
平成 26 年度	26,035,692	8,812,892	33.8%
平成 27 年度	29,005,879	8,849,463	30.5%

資料：へきなんの福祉（各年3月末現在）

#### 5) ひとり親世帯数の推移

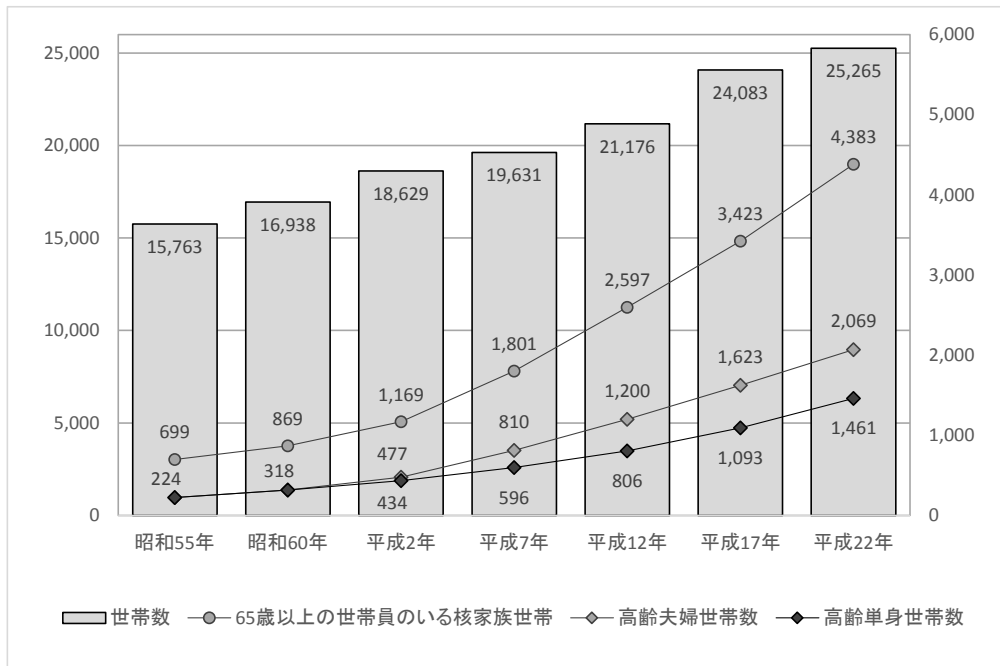
ひとり親世帯は、平成20年のリーマンショック後の2年間（平成21年及び平成22年）で100世帯以上の増加があり、その後はほぼ横ばいです。



資料：へきなんの福祉（各年3月末現在）

## 6) 高齢者世帯数の推移

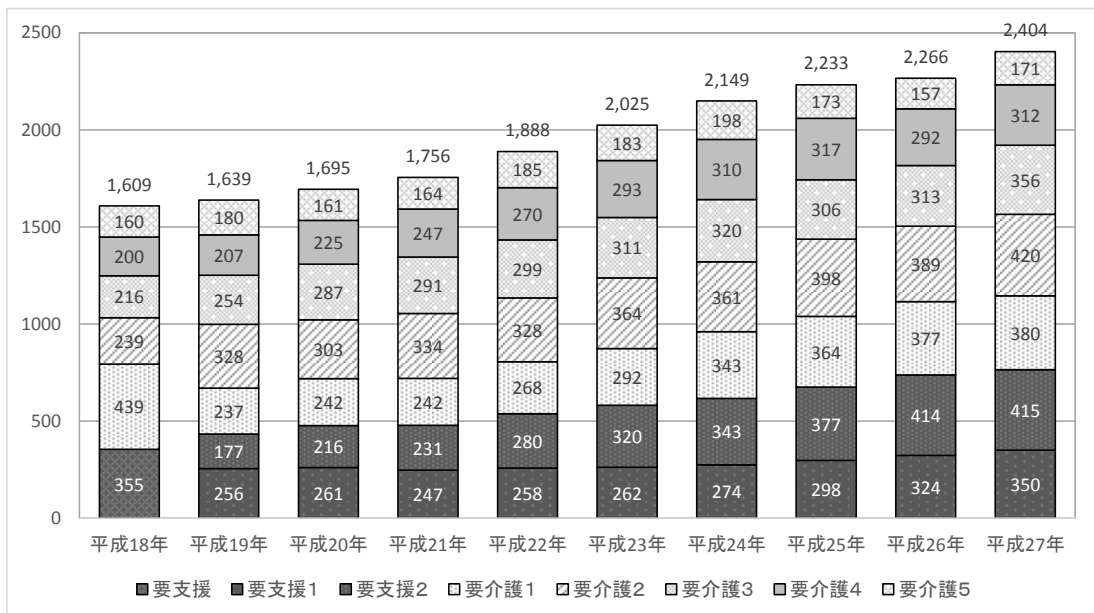
高齢者世帯は年々増加しており、平成22年では高齢夫婦世帯が2,069世帯、高齢単身世帯が1,461世帯となっています。



資料：碧南市高齢者ほっとプラン（第6期高齢者福祉計画・第6期介護保険事業計画）

## 7) 要支援・要介護の推移

要支援・要介護認定者数は、年々増加傾向を示し、平成27年現在で認定者数は2,404人となっています。

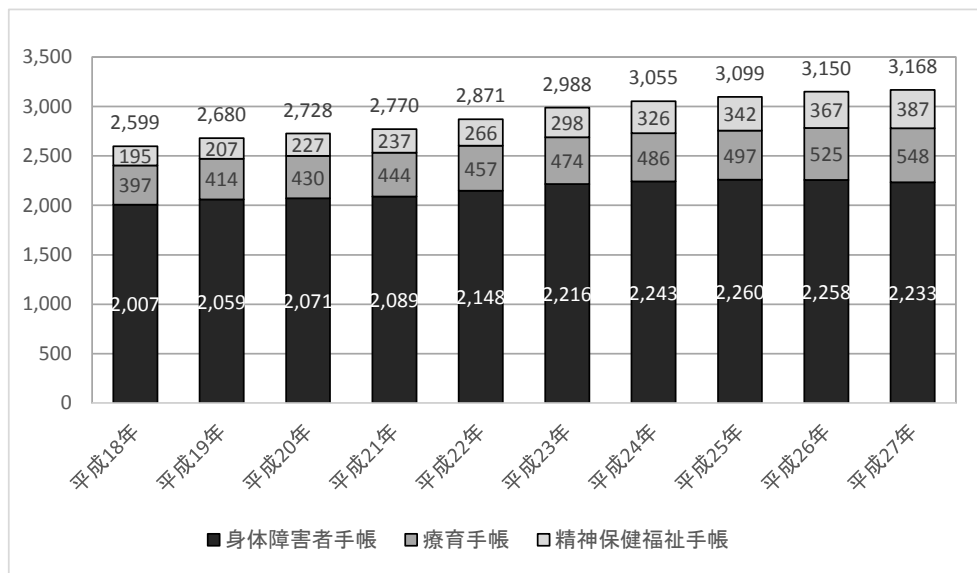


資料：へきなの福祉（各年3月末現在）

## 8) 障害者数の推移

障害者手帳交付者数は、年々増加傾向が続いています。特に精神保健福祉手帳の交付者数は平成18年から平成27年の9年間で約2倍と大幅に増加しました。

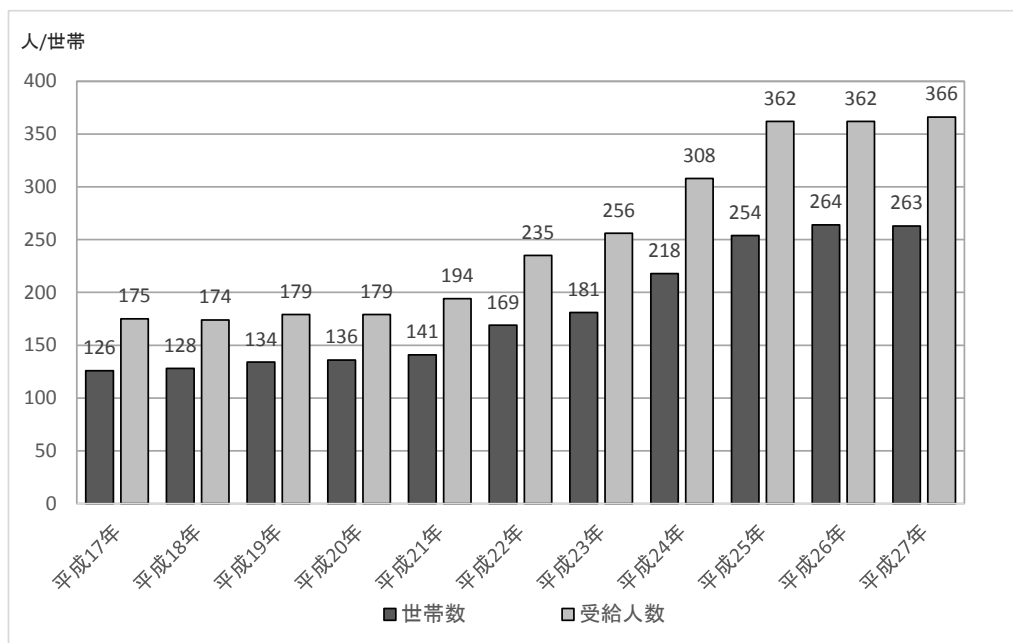
障害者手帳交付者数の推移



資料：へきなんの福祉（各年3月末現在）

## 9) 生活保護受給者数

生活保護受給者数は年々増加傾向にあります。特に平成20年のリーマンショック以降の5年間で約2倍の数になっています。



資料：へきなんの福祉（各年3月末現在）

### 10) 町内会加入率の推移

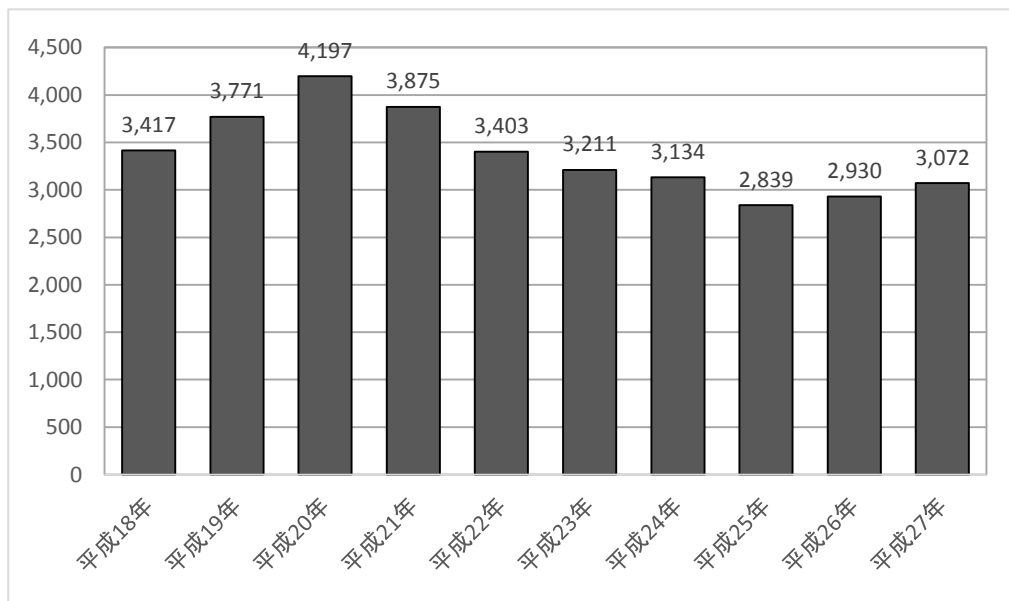
平成27年は市全体で78.4%であり、地区による加入率の差も見られますが、全体的に横ばい状況です。

地区／年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
新川地区	79.6%	78.5%	79.9%	80.3%	79.4%	79.0%
中央地区	74.4%	72.9%	73.5%	73.5%	72.2%	72.9%
大浜地区	81.7%	81.4%	81.9%	82.0%	81.3%	80.5%
棚尾地区	72.7%	72.5%	72.1%	71.8%	70.6%	70.6%
旭地区	83.4%	81.7%	81.0%	81.3%	81.1%	81.9%
西端地区	77.6%	77.7%	78.2%	79.2%	79.2%	78.9%
全市合計	79.5%	78.5%	78.9%	79.1%	78.5%	78.4%

資料：地域協働課

### 11) 外国人住民の推移

平成20年から減少傾向を示していますが、平成25年からは増加傾向を示しており、平成27年3月末では3,072人となっています。



資料：市民課（各年3月末現在）

## 2. 市民意識調査結果

### 1) 市民意識調査の概要

本市の地域福祉に関する意識調査を行うため、第1次地域福祉計画策定時の平成17年と平成26年の2回のアンケート調査結果を分析しました。

#### (1) 平成17年アンケート（前回の調査）

##### ア 調査対象

住民基本台帳（18歳以上）から無作為に抽出した2,000人

##### イ 回収結果

回答者1,017人（回答率50.9%）

#### (2) 平成26年アンケート（碧南市政アンケート内にて実施。今回の調査）

##### ア 調査対象

住民基本台帳（20歳以上）から無作為に抽出した1,500人

##### イ 回収結果

回答者824人（回答率54.9%）

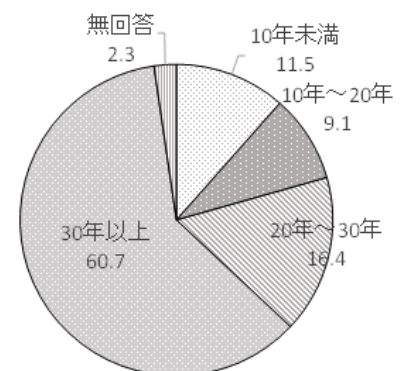
### 2) 調査結果

アンケート結果に関して、碧南市における地域の現状を踏まえながら碧南市の特性及び課題を整理した結果、次のようなことが挙げられます。

#### (1) 居住年数も長く、地域での暮らしを希望しています。

居住年数で30年以上の方も多く、老後の暮らしも家族との支え合いでの暮らしを望まれています。

地域における支援体制の検討が必要になっています。



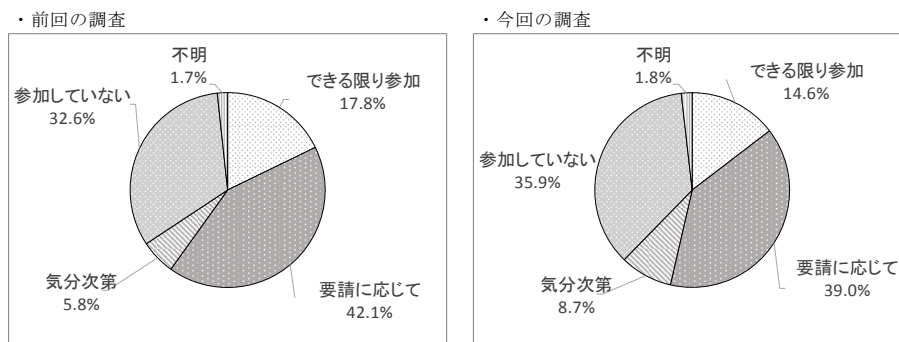
(2) 地域での活動への参加状況は、高い傾向にあります。

地域での活動へは、「出来る限り参加」、「要請に応じて参加」を合わせると50%以上を示し、参加される割合は高い傾向にあります。前回調査より減少しているため、きっかけづくりが重要と考えられます。

年齢別では、「参加していない」はどの年代も高い割合を示していますが、20歳代では70.5%と特に高い割合となっており、若い世代を中心に参加する機会や場の提供が必要となっています。

地域別では、大浜地区、旭地区及び西端地区で「出来る限り参加」、「要請に応じて参加」と回答した人が、全体と比べて多い傾向にあります。

市全体では、年齢別では若い世代を中心に参加機会の増加と全体としても地域活動への参加意識を高めることが重要となります。



(3) ボランティアの参加経験は、約半数の方が未経験となっています。

過去での参加経験も含めると、経験と未経験ではそれぞれ約半数となっています。

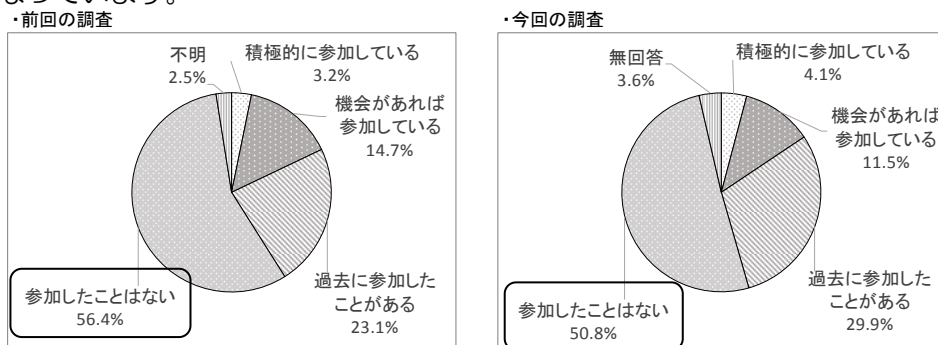
また、参加したボランティアの内容も、「まちの美化・清掃」や「イベント手伝い」等で、福祉関係のボランティアの経験者は少ない傾向にあります。

年齢別では、特に若い世代で「過去に参加したことがある」人が多く、継続して参加してもらうために必要なことや意識啓発が課題だと言えます。

地域別でみると、中央地区及び棚尾地区では、高齢者や教育に関するボランティアに参加したことがある人が碧南市全体よりも多い結果となっています。

一方、市全体で、「参加した経験はない」と回答した人は、前回調査では56.4%、今回調査では50.8%と減少しており、ボランティアへの参加が増えています。

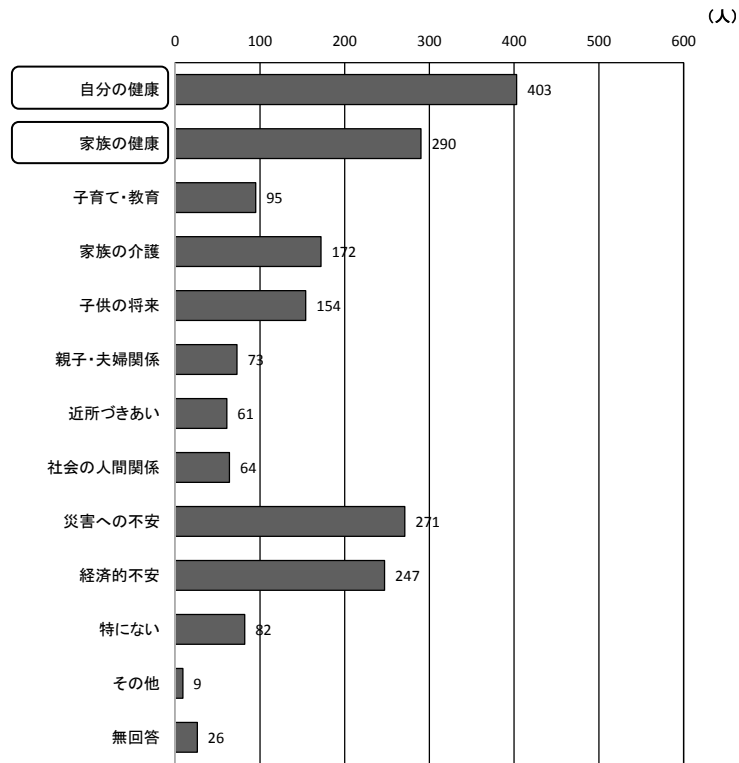
しかし、半数以上が未経験となっており、地域行事への参加同様、経験するきっかけづくりが課題となっています。



(4) 「健康」に関して、日々の暮らしの不安を感じられています。

前回の調査では、「災害の不安」が高い傾向にありましたが、今回の調査では、自分や家族の健康に関して不安を感じられています。地域別でみると、新川地区、中央地区及び旭地区で全体よりも多くの方が回答しています。

高齢化率が増加するなか、自分や家族の健康に対する不安を取り除く支援が必要とされています。

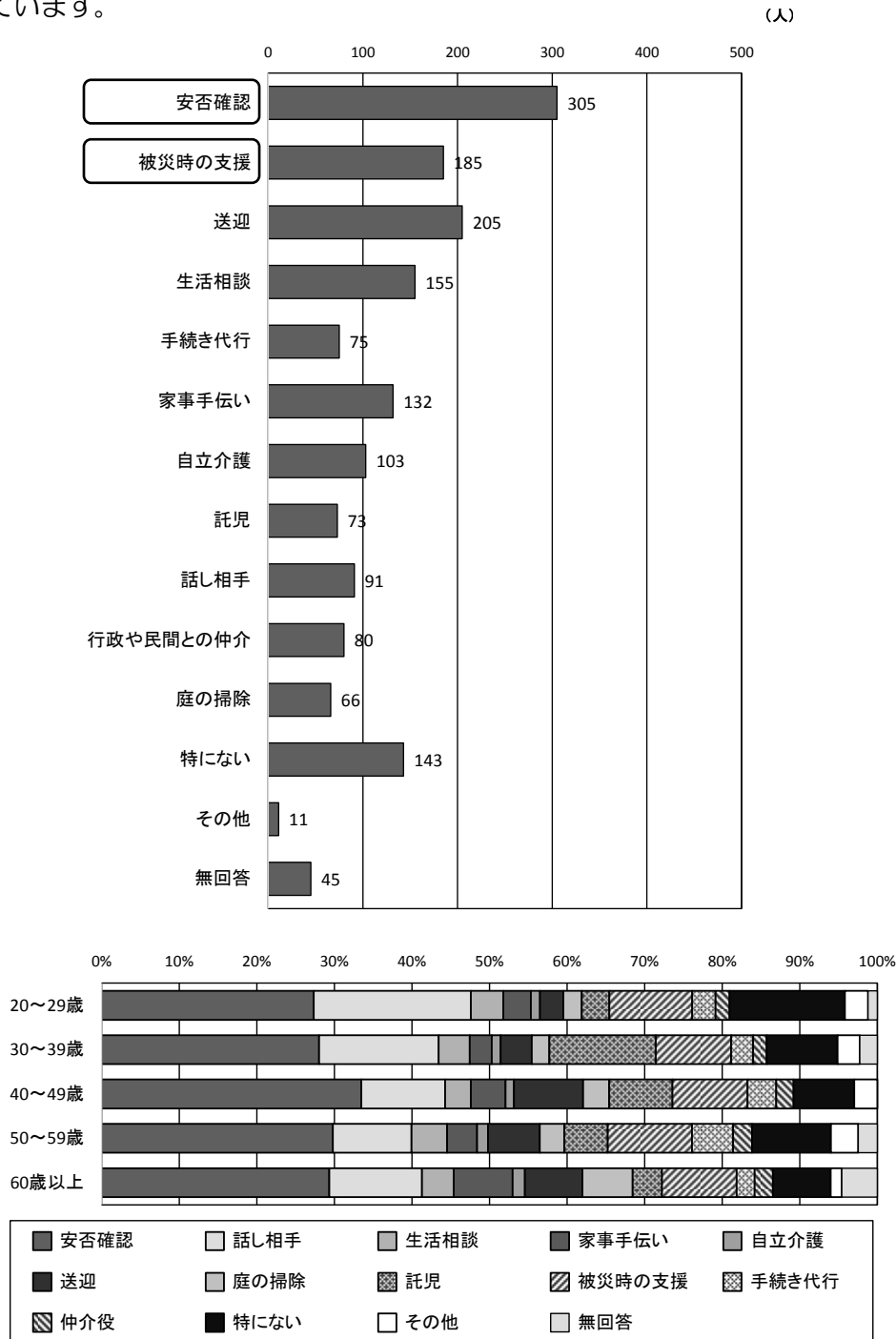




(5) 地域で助けてほしい内容として「安否確認」が高い傾向にあります。

地域で助けてほしいこととして、「安否確認」及び「被災時の支援」が多くあり、日常生活と緊急時における助けを求めています。

年齢別でみると、30歳代では、「自分に手助けできること」で多かった「託児」が、「助けて欲しいこと」でも高くなっており、手助けできる人と助けてほしい人をうまく繋げることが課題となってきます。また20歳代、60歳代で助けてほしい「安否確認」をうまく繋げ、お互いに助け合いができる異世代間の交流をつくり、不安を解消するため、身近な地域での支援が重要となっています。



(6) 今後の福祉のあり方については、「高齢者・障害者等の自立支援」が挙げられています。

生きがいつくり、緊急時の支援等、これまでも高い傾向を示していた項目の中で、高齢者、障害者の自立支援が高くなっています。福祉での前向きな意識がみられます。

年齢別でみると、子育てに関心がある20歳代・30歳代では、「子どもへの福祉教育や心の教育」が高くなっていますが、年齢が上がるにつれて低くなっており、地域全体での子育ての大切さも啓発する必要があると考えられます。

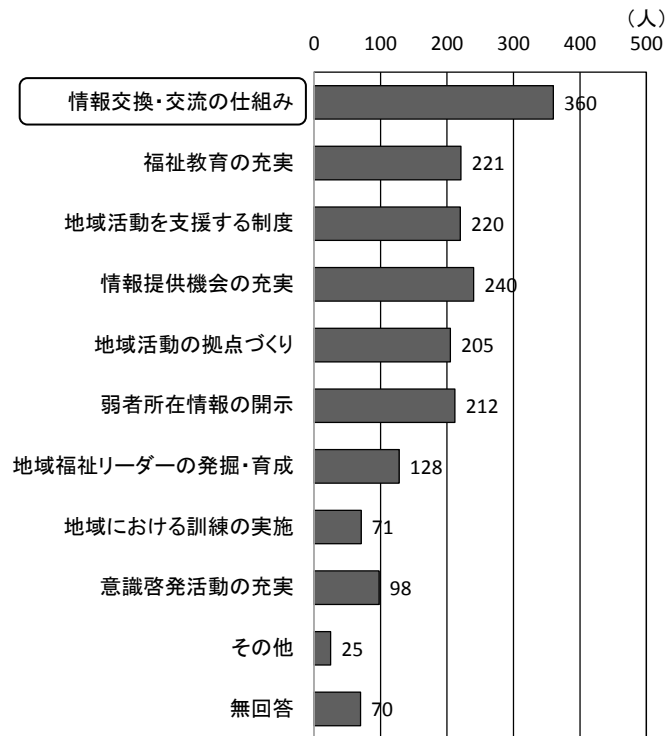
地域別でみると、新川地区、中央地区及び旭地区で「健康づくり」や「高齢者・障害者の自立支援」と回答した人が全体よりも多い傾向となっています。

	健康・生きがい	災害・緊急時の支援	高齢者・障害者等の自立支援	地域福祉の拠点	危機管理体制の充実	情報提供の充実	子どもへの福祉教育	社会意識での福祉教育	地域活動の活性化	地域の福祉・育	市民活動支援	その他	無回答
20～29歳	29 12.9%	26 11.6%	34 15.1%	32 14.2%	27 12.0%	8 3.6%	32 14.2%	6 2.7%	16 7.1%	4 1.8%	8 3.6%	1 0.4%	2 0.9%
30～39歳	22 9.4%	29 12.4%	28 12.0%	27 11.6%	30 12.9%	18 7.7%	42 18.0%	12 5.2%	9 3.9%	6 2.6%	7 3.0%	0 0.0%	3 1.3%
40～49歳	50 14.6%	39 11.4%	42 12.3%	45 13.2%	50 14.6%	28 8.2%	35 10.2%	20 5.8%	11 3.2%	7 2.0%	9 2.6%	3 0.9%	3 0.9%
50～59歳	52 13.3%	48 12.3%	65 16.6%	54 13.8%	41 10.5%	47 12.0%	17 4.3%	18 4.6%	20 5.1%	9 2.3%	11 2.8%	1 0.3%	8 2.0%
60歳以上	135 17.0%	110 13.9%	126 15.9%	109 13.7%	77 9.7%	65 8.2%	30 3.8%	22 2.8%	45 5.7%	32 4.0%	14 1.8%	5 0.6%	23 2.9%

(7) 都市化が進み、地域住民間のつながりが希薄化していく中で、地域における相互扶助意識を向上するためには、「情報交換・交流の仕組み」が挙げられています。

今回の調査では、「情報交換・交流の仕組み」が高くなっており、携帯・パソコン等の情報機器の普及等、社会背景を反映しています。

このため、今後は情報機器の利用を想定した情報発信も、広報の手法として位置づけが重要となります。



### 3. 地域福祉懇談会

#### 1) 地域福祉懇談会の概要

##### (1) 目的

地域の福祉課題の抽出を行い、抽出された課題に地域のネットワークシステムを作りながら住民が主体となって取り組む計画の策定を行うため、「共に生き、相互に支えあうことができる地域」の構築を目指し、「地域の出来事を 自分事として考える。」をテーマに地域福祉懇談会を開催しました。

##### (2) 日程・参加者

###### ●参加者及び参加人数

各地区の代表者（連絡委員、老人クラブ、民生委員、PTA、子ども会役員、青少年育成推進員等）及び参加希望者（回覧板にて募集）

参加人数は、各地区20人から35人程度

###### ●開催日程

地区名	第1回	第2回	場所	グループ数
新川	7月21日（火）	9月18日（金）	福祉センターあいくる	4グループ
中央	7月17日（金）	9月 8日（火）	中部公民館	4グループ
大浜	8月21日（金）	9月29日（火）	南部市民プラザ	4グループ
棚尾	8月24日（月）	9月15日（火）	棚尾ふれあい館	4グループ
旭	7月30日（木）	9月 9日（水）	東部市民プラザ	4グループ
西端	7月10日（金）	8月27日（木）	西端公民館	6グループ

### (3) 主な内容

#### ●第1回 地域福祉懇談会

- ◆日本福祉大学野尻先生の講話「地域福祉とは」
  - ・普段の近所同士の付き合いが、災害時等のいざという時に力になるということ。
  - ・ひとりひとりの価値観を大事にすること。
  - ・ふだんのくらしのしあわせ
- ◆ワークショップ（KPT法の「K（Keep）」と「P（Problem）」を考える。）
  - ・グループに分かれ、地域の良さ・強み（K）・地域の課題・困りごと（P）を付箋に書き出し、発表しながら模造紙にまとめる。
  - ・まとめた内容をグループごとに発表する。

#### ●第2回 地域福祉懇談会

- ◆日本福祉大学野尻先生の講話「地域の課題解決に向けて」
  - ・問題解決の考え方（ネットワークづくりが必要）
- ◆ワークショップ（KPT法の「T（Try）」を考える。）
  - ・グループに分かれ、これからどのように暮らしていきたいかを付箋に書き出し、発表しながら模造紙にまとめる。
  - ・書き出した暮らしを実現するために、自分たちが地域でできること、やってみたいこと（T）を話し合い、付箋と模造紙にまとめ、各グループでスローガンを考える。
  - ・まとめた内容をグループごとに発表する。



地域について、グループの皆さんで話し合っています。

まとめた結果を、グループごとに発表し、意見を交換しました。



## 2) まとめ

### (1) 各地区の主な意見

各地区の主な意見は以下のとおりです。

	K (地域の良さ・強み)	P (地域の課題・困りごと)	T (自分たちにできること)
新川	<p>高齢者が元気</p> <p>中学生が積極的にイベントに参加している。</p> <p>地区のお祭りやイベントが盛ん。</p> <p>子どもの遊べる施設がたくさんある。(明石公園、図書館、あいくる等)</p>	<p>少子高齢化が進んでいる。</p> <p>新しく入ってきた人やアパート・マンションの人との交流がない。</p> <p>町内会、消防団の人手不足</p> <p>外国人増加に伴う言葉の問題</p>	<p>花かざり運動の歌を作ってもっと PR をする。</p> <p>高齢者が活躍できる場づくり。(下校時の子供たちの見守り)</p> <p>お年寄りの知識を活かして、町の人をつなげる。</p> <p>ふれあいサロンの対象者拡大</p> <p>地域のリーダーを育てる。</p> <p>子どもを通じて親にも町内行事に参加してもらい、地域のつながりを広げる。</p> <p>犬(ペット)を通じたコミュニケーション</p>
中央	<p>近所同士の付き合いがある。</p> <p>地域の子どもたちとのつながりがある。</p> <p>子どもやお年寄りが利用できる公園がある。</p> <p>区内のイベントに参加者が多く集まる。</p>	<p>子どもの遊ぶ場所が少ない。外で遊ぶ子どもが少ない。</p> <p>新しくできた家と近所の付き合いがない。</p> <p>町内会や老人会などの人手不足</p> <p>隣組との連絡が薄い。</p>	<p>ボランティア、中学生と関わり多世代が楽しめる行事を開催</p> <p>朝活を通して地域交流</p> <p>男性も地域参加できるような取り組みをつくる。(おやじの会の復活)</p> <p>誰にでも挨拶、めげずに挨拶</p>
大浜	<p>人情の厚い人が多い。</p> <p>近所づきあいがあり、仲が良い。</p> <p>お祭りやイベントが盛ん。</p> <p>高齢者が元気</p>	<p>お祭りや消防団等の人手不足</p> <p>高齢者世帯が多い。</p> <p>町外から引っ越してきた方や、外国人居住者との交流がない。</p> <p>買い物難民の発生</p>	<p>神社仏閣を活用し、草取りや屋外シアター等イベントを開催する。</p> <p>空き家を有効利用し、気軽に立ち寄れる場をつくる。</p> <p>趣味を活かし、活躍できる場をつくって、交流のきっかけをつくる。</p> <p>買い物難民対策で、地域送迎ボランティアをつくる。</p> <p>老人会と子ども会と一緒に活動する。</p> <p>町内会の必要性を PR する。</p> <p>地域で防災講座や防災訓練を開催する。</p>

## 第2章 碧南市の状況

	K（地域の良さ・強み）	P（地域の課題・困りごと）	T（自分たちのできること）
棚尾	<p>近所同士の付き合いが良い。 地区としてのまとまりがある。 児童センターがある。 回覧板が必ず手渡しで届く。 妙福寺のお祭り</p>	<p>高齢化・高齢世帯の増加 町内会や地区役員、消防団などの なり手がいない。 新しい住民が隣組に入らない。 （町内会離れ） 地域行事に若い人の参加が少ない。</p>	<p>まちづくり協議会の活用 年寄り人材派遣センターをつくり昔遊 びの講師に行く。 空家を活用しサロンやカフェをつく る。 緑道の管理を地域で担い、皆で作業す る。 防災訓練を兼ねた、地域の住民参加型 のイベントを行う。 子どもを通じて親同士がつながれるイ ベントを行う。</p>
旭	<p>民生委員さんが頼りになる。 高齢者が元気 近所同士の付き合いがいい。 青色パトロール車の巡回があ る。 花植えボランティア、日進みら いの会の活躍</p>	<p>高齢世帯の増加、若者は都会へ。 町内会や消防団のなり手がいな い。 世代間の交流が少ない。 集まる場がない。 外国人との交流の方法がわからな い。</p>	<p>県道の花植えに中学生と一緒に参加を する。 皆が参加できる行事を行う。 地域で隠れている人材を探し、育成す る。 鷲塚小での昔遊びでつながる世代間交 流の場の活用 空き店舗や公民館を活用し、皆が楽し く集うカフェづくり。</p>
西端	<p>地区の行事も多く、人のつなが りがある地域 こどものあいさつがあり、すこ やかに育つ環境 自然があり、住みやすい。 畑があり、畑を通じたつながり がある。 地域の防犯パトロール</p>	<p>新しい住宅街は、つながりが薄 い。 町内会に入らない人が増えてい る。 人材の不足（地域の担い手が減っ ている。） 少子高齢化 単身世帯の増加 お店が少なく買物に困る。 災害への備えの弱さ。</p>	<p>フラダンスを通して外国籍の方にも西 端のことを知ってもらおう。 老人クラブ、環境保全会、こども会 等、これまで関わりのない団体との活 動 野菜作りの得意な高齢者との関わる機 会を持つ。</p>

○各地区とも、良い点や強みについて「人づきあい」や「地域のつながり」といった意見が多くありましたが、一方で「新しく入ってきた人の顔がわからない。」、「町内会や消防団等の担い手がいない。」等の意見もありました。

○地域のできることとしては、「近所同士のあいさつ」や「人や各団体、多世代との交流の機会」といった意見が多くありました。

## (2) 全体のまとめ

地域福祉計画は、その策定プロセスそのものとも言われています。参加された地域の方々からは、この懇談会の取り組みを通じて、「地域の様々な団体・個人が地域の課題を出し合い、その解決のための取り組みについて話し合えたことがとても有意義だった。」との意見が多くありました。

この取り組みを通じて、地域の出来事をまず自分の事として考え、地域課題の解決に向けて地域でできる創意工夫ある様々な取り組みをご提案いただきました。その中で地域でのつながりを作り上げていく様々な交流の場づくりや機会づくりが挙げられ、それを主体的に取り組んでいく意気込みを感じました。そのきっかけは、あいさつや声掛け等、日頃からのちょっとした心がけや少しの勇気だということも分かりました。

アドバイザーの先生も交えながら、意見交換していきます。



終始和やかな雰囲気での地域福祉懇談会でした。



## 4. 課題の整理

策定にあたり、課題については碧南市の現状、アンケート分析及び地域福祉懇談会の結果から整理しました。少子高齢化が進む中、地域での活動を進めていく上で、支援される側、また支援する側それぞれが課題を抱えている現状が見られます。それぞれから見てきた課題は次のとおりです。

### 1) 碧南市の現状

- ①高齢者及び障害者の増加に伴い、自立支援における支援体制の整備
- ②生活保護受給者、生活困窮者の増加による自立支援体制整備
- ③住民の地域活動参加を促進するため、町内会加入率の向上
- ④外国人の増加に伴い、地域活動への参加を促進するための交流事業等の実施

### 2) 地域福祉に関するアンケート

- ①地域行事やボランティアへの参加及び継続する意欲の向上
- ②日常生活の中での健康及び安否確認等の不安解消
- ③災害・緊急時の支援体制
- ④地域で助けを必要としている人と手助けできる人をつなげる仕組み
- ⑤地域全体で子育ての大切さの啓発
- ⑥相互扶助意識向上のため、情報交換や交流の仕組み

### 3) 地域福祉懇談会

- ①人とのつながりが重要
- ②気軽に交流できる場づくり、機会づくり
- ③担い手不足の解消
- ④地域で話しあえる場（地域福祉懇談会の様な場）づくり

以上の課題を整理すると、5つの課題となります。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>1 日々の生活において福祉意識をさらに高める</li><li>2 世代間での交流機会の創出</li><li>3 多様化する福祉問題に対応した福祉サービス、相談体制の整備</li><li>4 地域福祉の担い手の育成</li><li>5 地域ぐるみで安心・安全を高める体制づくり</li></ul> |
|---|

## 第2部 基本計画

## 第1章 基本理念・基本目標

### 1. 基本理念

第2次地域福祉計画の基本的な考え方である「共に生き、相互に支え合うことができる地域」の構築及び「地域の出来事を まず自分事として考える。」ことに取り組みながら、生活圏域を基礎に高齢者、障害者、子ども等地域を構成している市民一人ひとり、住民組織、様々な関係団体、社会福祉協議会及び市において「自助（自立）」、「共助（支え合い）」、「公助（支援と保障）」を継続して進めていくこととします。

そこで、次のとおり設定しました。

— 基本理念 —

地域で築く つながり 支えあうまち へきなん

### 2. 基本目標

基本理念の実現及び5つの課題解決には、環境づくり、人づくり、場づくり等といった施策が必要であるため、次のとおり5つの基本目標を設定しました。

#### 基本目標1 福祉の意識を高める環境づくり

「人は支え合いながら生きている」、この誰もが一度は耳にする言葉、人間社会はまさにこの言葉によって支えられています。もちろん地域福祉においても、この支え合い・助け合いの意識は、地域社会を形成するにあたって核となるものです。しかし高度化していく現代社会においては、やや実感しにくくなっているのも事実です。そこで、子どもや大人に限らず、すべての住民が様々な機会を通じて、これらのことを再認識できるよう、また、地域福祉への関心と意識が高まるよう環境づくりを進めます。

#### 基本目標2 世代間や地域での交流の機会づくり

地域福祉は「自助・共助・公助」という補完の原則を基本としています。これは、自分でできることは努力（自助）し、できない場合は隣近所や町内会等地域の協力（共助）で、地域で解決できないことは行政（公助）で、それぞれの役割を担いながら、地域の福祉課題に対して、解決を進め

ていく考え方です。つまり隣近所や町内会等、最も身近な住民同士のつながりは、地域福祉の原点となるものです。そこで、身近な地域で様々な交流の場や住民同士が顔を合わせられる機会を身近な地域で設け、交流の機会をつくっていきます。

### **基本目標3 地域福祉活動を支える人づくり**

地域福祉を推進するにあたっては、福祉活動や支援を行う人の力が最も重要なものとなります。地域では、町内会やボランティアグループ等が中心となって、福祉活動が展開されています。これらの活動団体及び市、社会福祉協議会が協働し、人材の育成・発掘を進めるとともに、今日的な福祉ニーズや課題に応じた活動団体の育成・組織化等、地域福祉活動の人づくりを進めます。

### **基本目標4 多様化する福祉課題に対応する支援体制づくり**

地域には、子育てに悩んでいる人、一人暮らしで不安を抱えている高齢者、障害者、支援を必要としているがサービスが行き届いていない人、虐待を受けている人等、個人では解決することが難しい福祉課題が様々にあります。これらの福祉課題については、地域住民を始め、町内会や民生委員等の各種団体や機関等と協働して解決していくことが必要です。さらには、地域福祉の推進機関である社会福祉協議会の充実や住民参加型による福祉サービス・支援活動を促進する体制づくりを進めます。

### **基本目標5 安心・安全を高める地域づくり**

災害を始め、日常生活での安心・安全が大きな関心となっている今日、地域住民の安心・安全を守るために、地域で何ができるのかということが問われています。そのためには、何か起きれば気づけるような顔の見える関係づくりが重要であり、隣近所にどのような人が住んでいるか把握することが必要です。もちろん、このような地域は防犯力も高くなります。地域の安心と安全はそこに暮らす自分たちで守っていくという意識のもと、住民による主体的な防災・防犯活動を中心としながら、関係機関や団体等の連携・協力体制を強化していくことで、より安心・安全を高めることができる地域づくりを進めます。

### 3. 施策の体系

基本理念	基本目標	基本方針
地域で築く つながり 支えあうまち へきなん	1 福祉の意識を高める 環境づくり	1-1 地域における支え合い意識の向上 1-2 福祉について学ぶ機会の創出 1-3 地域組織活動の推進
	2 世代間や地域での交流の 機会づくり	2-1 地域での交流の機会づくり
	3 地域福祉活動を支える 人づくり	3-1 地域福祉を担う人材等の育成
	4 多様化する福祉課題に 対応する支援体制づくり	4-1 情報提供及び支援ネットワークの充実 4-2 安心して子どもを生み育てられる環境づくり 4-3 高齢者・障害者・生活困窮者の自立支援
	5 安心・安全を高める 地域づくり	5-1 家庭・近所・地域での防災対策の充実 5-2 地域の見守り・防犯活動の推進 5-3 権利擁護の充実

## 第2章 基本計画

### 1. 基本目標 1 福祉の意識を高める環境づくり

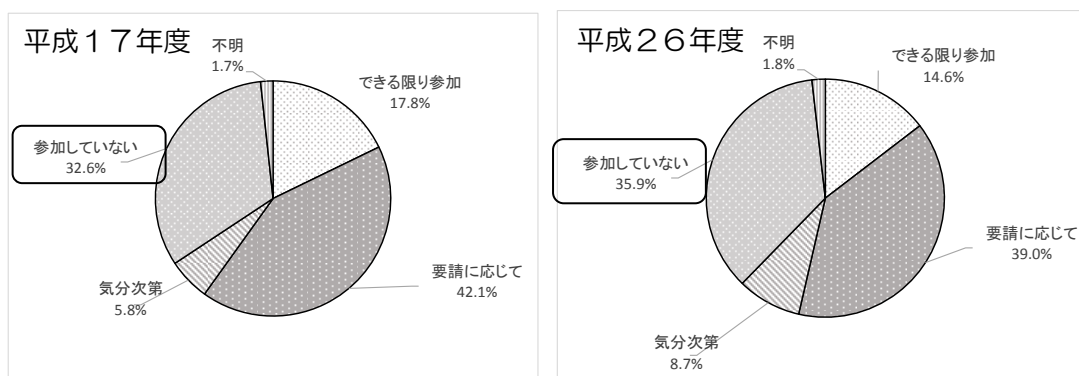
#### 基本方針 1-1 地域における支え合い意識の向上

##### 【現状と課題】

市や社会福祉協議会では、これまで地域福祉をテーマとした講演会や研修会の開催、ボランティア活動等の体験機会の提供等を通じて地域福祉の啓発に取り組んできました。また、学校の総合的な学習の時間、公民館の地域住民を対象とした教育事業等で福祉をテーマとした取り組みをしてきました。

しかし、住民一人ひとりが安心して暮らせるよう地域で支え合うという地域福祉の考えが市民に十分浸透していない部分があります。例えば、アンケート調査結果においても、「地域活動への参加頻度」について「参加していない」と回答した人は、平成17年度では32.6%、平成26年度調査では35.9%とわずかに増えています。

##### ◆ アンケート調査：「地域活動への参加頻度」



市民一人ひとりが毎日の暮らしの中で、お互いを認め合い、年齢の違いや障害の有無に関わらず、お互いに尊重し地域で支え合うという地域福祉の意識を高める必要があります。

##### ◆ 地域福祉懇談会での意見

- 町内会に入らない人が増えている。
- 古くから住んでいる人同士は、あいさつをする等交流があるが、新しい人はあまり交流がない。
- ボランティア活動は決まった人ばかりが実施している。

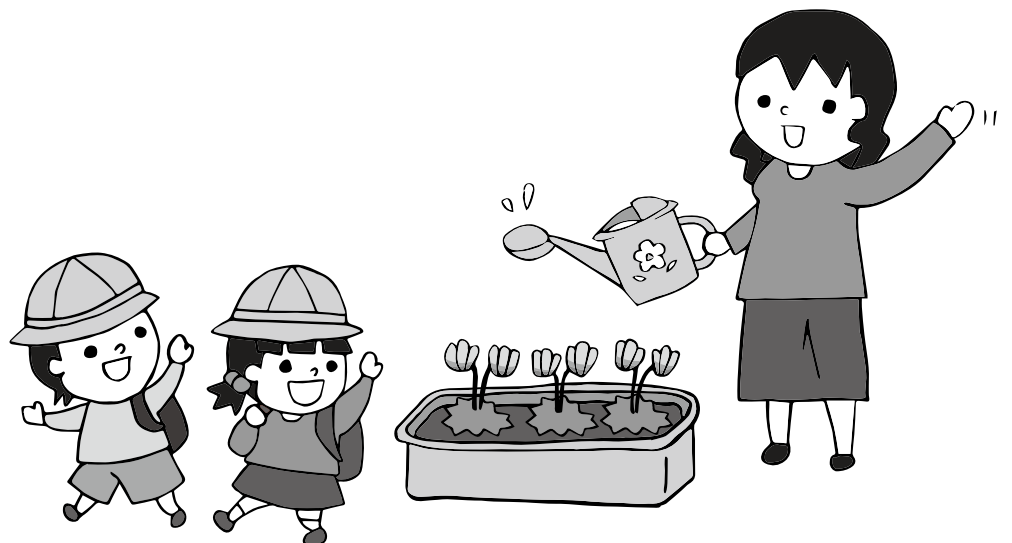
【今後の取り組み】

施策1 地域福祉に関する市民意識の向上

役割分担	内容
市民	○地域に住んでいる高齢者や障害者、子育て家庭等に対する理解を深めましょう。 ○地域活動やボランティアに参加し、活動参加の意欲を高めましょう。
社会福祉協議会	○高齢者や障害者、子育て家庭等に関する講座を開催します。 ○地域活動やボランティアに関する講座を開き、市民が活動に参加する意欲が高まるよう取り組みます。 ○地域での福祉の大切さをPRします。
行政	○高齢者や障害者、子育て家庭等に関する理解を深める講座を支援します。 ○地域活動やボランティアに関する講座を支援します。

施策2 声掛け運動の推進

役割分担	内容
市民	○普段の暮らしの中で隣近所の人とあいさつを交わしましょう。 ○地域の子どもに関心に向け、積極的にあいさつをしましょう。
社会福祉協議会	○市民の自主的なあいさつ運動等の取り組みを支援します。 ○高齢者の集える場づくりを推進します。
行政	○市民が自主的に行うあいさつ運動を支援します。



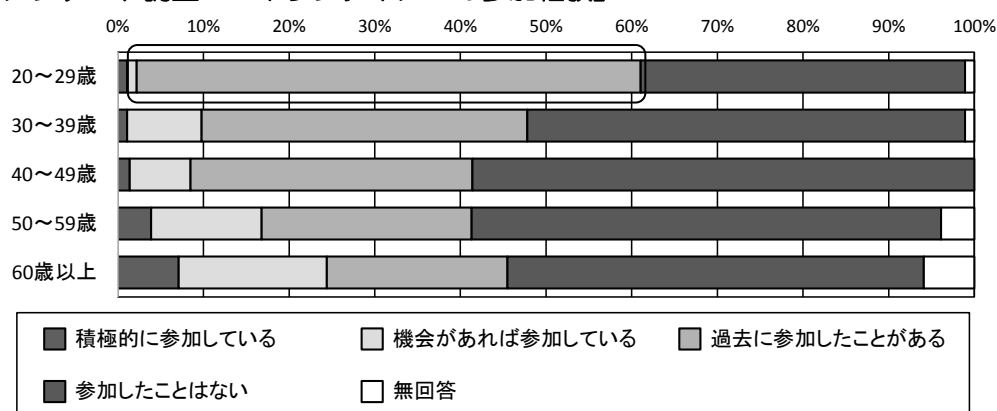
## 基本方針 1-2 福祉について学ぶ機会の創出

### 【現状と課題】

子ども達に対する学校での福祉教育や生涯学習を通じて、市民が人権や福祉に対して関心を高められる機会の提供を図ってきました。

しかし、変化する社会経済状況の中では、従来のように家庭や地域での相互扶助を通じてお互いを思いやる気持ち、認め合う心を育む機会が減少しています。このため、子どもの頃から福祉の心を高められる機会を提供できるよう、学校における体験や交流を通じた人権教育及び福祉教育の推進を図っていく必要があります。さらに、学校教育だけでなく、地域において市民が人権や福祉に関して学ぶ機会が持てるよう、生涯学習の推進を図ります。

#### ◆ アンケート調査：「ボランティアへの参加経験」



「ボランティアへの参加経験」について、「過去に参加したことがある」と回答した人は、20歳代が最も多く、50%以上となっています。

学校行事の中で、ボランティア活動を行う機会があると思われませんが、「積極的に参加している」、「機会があれば参加している」と回答した人は10%以下となっており、参加経験が参加の継続につながっていない状態となっています。今後、ボランティア活動参加の経験を継続した参加につなげることが課題となっています。



【今後の取り組み】

施策1 地域と学校の連携強化

役割分担	内容
市民	○学校公開日等子どもと触れ合える機会に参加しましょう。
社会福祉協議会	○交流の場をつくり、地域の異世代間のつながりをつくれます。
行政	○地域住民や保護者等が参加できるような学校公開日等の行事を開催します。

施策2 学校教育における福祉教育の推進

役割分担	内容
市民	○福祉教育に関心を持ち、福祉実践教室等の体験学習に参加しましょう。
社会福祉協議会	○福祉教育の体験学習を推進します。
行政	○総合学習等によるボランティア活動体験や高齢者・障害者等との交流の機会を設定し、実践的な福祉教育を進めます。

施策3 地域福祉活動の機会づくり

役割分担	内容
市民	○地域で開催される福祉活動へ積極的に参加しましょう。
社会福祉協議会	○中学生や高校生を対象に夏休み等の期間を利用して、高齢者や障害者施設等への体験学習の機会を提供します。 ○ボランティア団体と連携して、地域の福祉活動を推進します。
行政	○公民館等を地域福祉活動の拠点として活用する地区の取り組みを支援します。



### 基本方針 1-3 地域組織活動の推進

#### 【現状と課題】

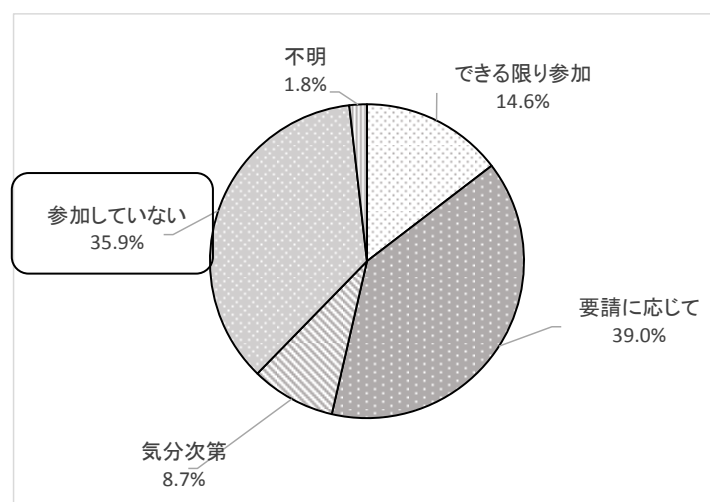
地域における課題が複雑化し、地域の活躍が必要不可欠となっていることから町内会活動が非常に重要な位置づけになります。

これまでも町内会へは活動費の補助を始めとして、様々な地域活動への支援を行っています。また、町内会へ加入しない方については、町内会加入を勧めています。

今後はさらに、町内会の周知及び加入促進を進め、町内会の役員や地域活動の担い手不足の解消に向け支援する必要があります。

アンケート結果によると、地域の行事への参加について「要請に応じて」が39.0%と最も多く、次いで「参加していない」が35.9%となっています。

#### ◆ アンケート調査：「地域の行事への参加」



#### ◆ 地域福祉懇談会での意見

- 町内会に入らない人が増えている。
- 若い人が地域の事に関心が薄い。
- 町内会の役員や消防団員等のなり手がいない。

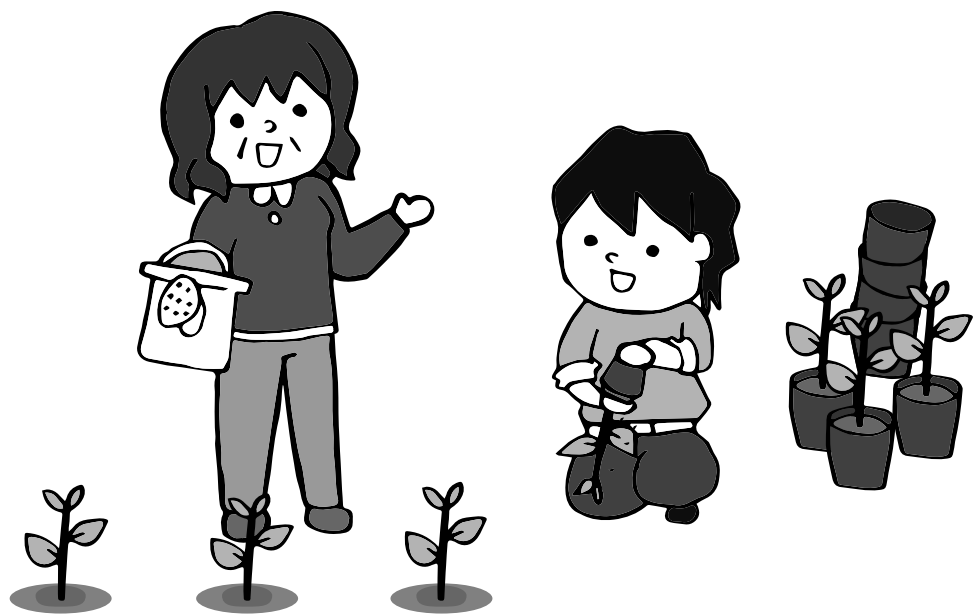
【今後の取り組み】

施策1 町内会周知と加入促進

役割分担	内容
市民	○町内会活動に関心を持って、積極的に加入しましょう。
社会福祉協議会	○地域福祉組織のネットワーク化を進め、町内会の充実を支援（促進）します。
行政	○町内会についての周知を積極的に実施します。 ○町内会加入のメリットを伝えながら、加入を促進します。

施策2 町内会等地域活動の支援

役割分担	内容
市民	○効果的な町内会活動を推進するため、町内会の役員選出等に関して、地域において検討しましょう。 ○町内会の活動や運営を行う際、協力できる体制や仕組みを検討しましょう。
社会福祉協議会	○地域活動を支援するため、ボランティア団体等と町内会との連携を図ります。
行政	○市政に関するわかりやすい情報を提供し、町内会活動を支援します。



## 2. 基本目標2 世代間や地域での交流の機会づくり

### 基本方針2-1 地域での交流の機会づくり

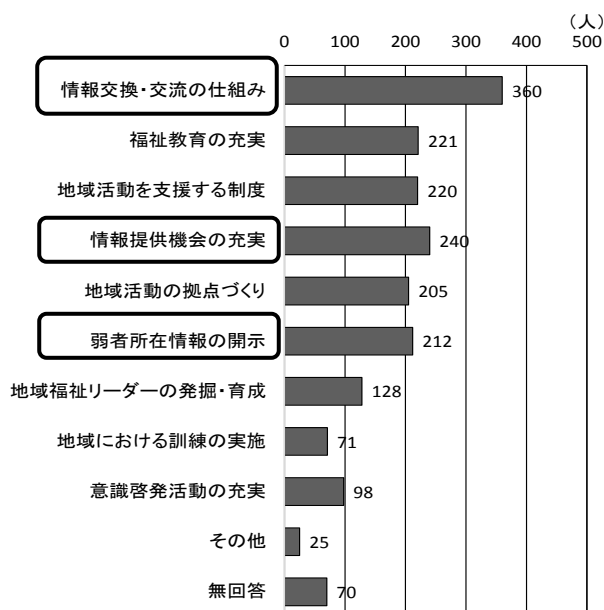
#### 【現状と課題】

社会経済状況やライフスタイル、価値観の変化に伴い、住民同士の交流機会が大きく減少しており、その中で引きこもりがちな高齢者や子育て世帯等、地域から孤立する人々の問題がクローズアップされています。このような中、孤立しがちな人々の見守りや安否確認にもつながるサロン活動や、各種イベント等は住民同士の交流につながる活動として重要性が増しています。

そのため、日常的に交流できる場や活動を推進するとともに、イベント等の活用や交流活動の拠点となる施設の確保支援等、住民交流のきっかけづくりが重要な課題となっています。

アンケート調査では、「地域活動への参加」について、「要請に応じて参加する」と回答した人が、平成17年度では42.1%、平成26年度では39.0%となっており、「出来る限り参加」と回答した人と併せると、半数以上が地域活動への参加に意欲があり、参加するきっかけづくりが重要となっています。

#### ◆ アンケート調査：「地域の相互扶助意識向上に必要なもの」



#### ◆ 地域福祉懇談会での意見

- 新しく地区に入ってきた人を知らない。
- 行事の参加が少ない。
- 地域の施設（空き店舗等）でカフェを開けば、いろんな人が集まり、交流の場になるのではないかと。

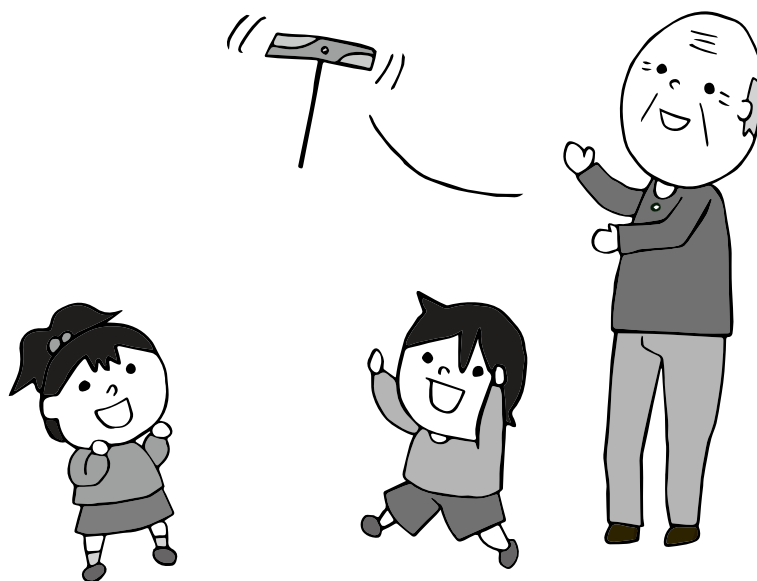
【今後の取り組み】

施策1 公共施設等を活用した交流の機会づくり

役割分担	内容
市民	○公民館や学校等、地域の施設を活用したイベントに積極的に参加し、世代が異なる人との交流を深めましょう。
社会福祉協議会	○地域で取り組まれている様々な行事と連携し、異世代が交流できるイベントを支援します。
行政	○公民館や学校等、公共施設を活用したイベントを行い、地域の子どもから高齢者までがふれあう機会づくりを進めます。 ○老人クラブのふれあい農園で園児と一緒に農作業をする等、子どもと高齢者が交流できる機会を作ります。

施策2 交流できる居場所づくりの推進

役割分担	内容
市民	○地域の人と親しく話し合いながら、交流を深めましょう。 ○地域行事に積極的に参加し、交流できる居場所づくりを検討しましょう。
社会福祉協議会	○地域の子育て相談や子育てサロンの活動、気軽に集える居場所づくり等を支援します。 ○幼稚園・保育園や小・中学校の行事、町内会行事等における子どもの交流を通じて、市民の交流を進めます。
行政	○地域住民の交流活動を促進するため、公民館等を活用した活動拠点の確保と提供を図ります。 ○地域の交流の場づくりを支援します。



### 3. 基本目標3 地域福祉活動を支える人づくり

#### 基本方針3-1 地域福祉を担う人材等の育成

##### 【現状と課題】

日常生活をしていく上で、公的なサービスで解決できるものもありますが、「蛍光灯の取り換え」や「ごみ出しの手助け」、「病気やケガの間だけ助けて欲しい」といった公的なサービスでは迅速な対応が難しいものもあります。これらの課題はすべての人が暮らしの中で直面する可能性があり、住民は地域福祉における受け手になり得ると言われています。

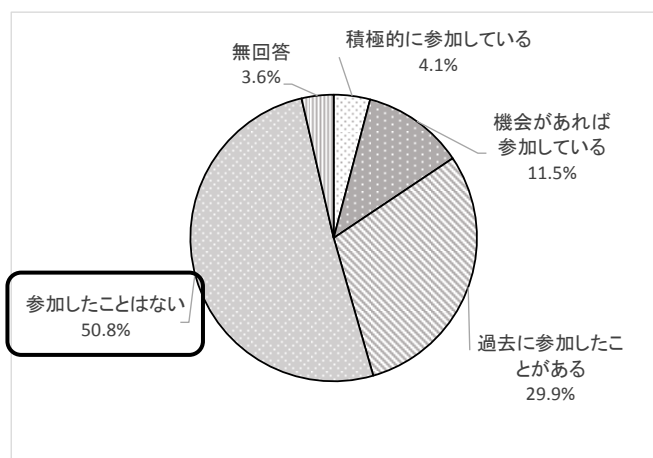
これまで課題の多くは、家族や地域社会の力で解決されてきましたが、社会情勢の変化等により家族や地域社会の力が弱まった今、公的なサービスを充実させるとともに、改めて家族や地域社会の力を強める重要性和、ボランティアやNPOといった新しい形の支え合い助け合いの必要性が認識されました。

多様な生活課題の解決のためには、市民一人ひとりが自立のための努力「自助」を果たしつつ、地域住民、住民組織や関係団体等が支え合い助け合う「共助」、そして行政が「自助」、「共助」を支援し、保障するといった環境整備を行うとともにこれらの連携を強化し、必要に応じて適切な公的サービス「公助」を提供する必要があります。このことから、住民は地域福祉の担い手でもあると言えます。

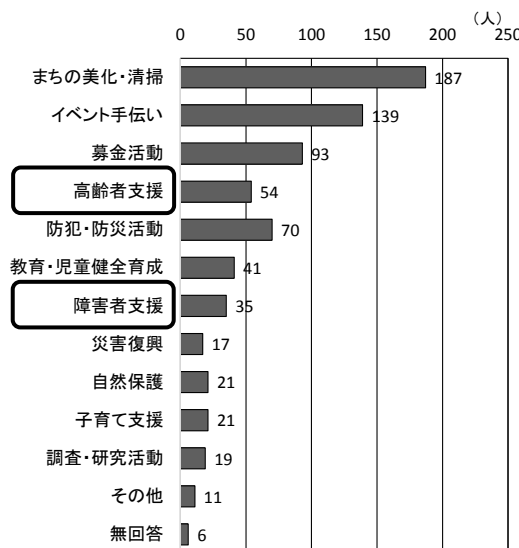
アンケートからは、ボランティアの参加状況について約50%が「ボランティアに参加したことはない」と回答しています。その中でも、参加経験のある人の経験したボランティア内容について、「まちの美化・清掃」や「イベント手伝い」では100人以上の回答があるのに対し、「高齢者支援」は54人、「障害者支援」は35人と、経験者はあまり多くありません。

地域福祉を担う人材育成については、今後も地域の人々の参加を促しながら推進していく必要があります。

◆ アンケート調査：「ボランティアの参加状況」



◆ アンケート調査：「参加したボランティア」



◆ 地域福祉懇談会での意見

- 手話等相手（障害者等）のことを勉強する機会を持つ。
- 皆が助け合えて声を掛け合える地域にしたい。

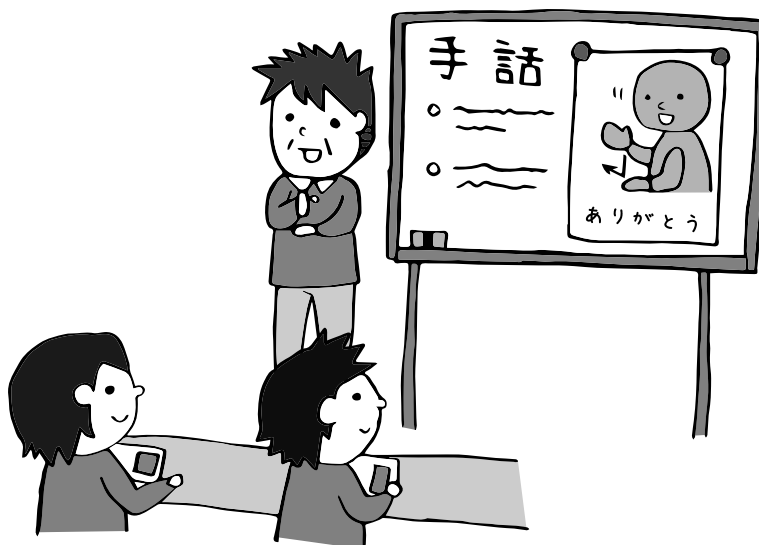
【今後の取り組み】

施策1 ボランティア育成支援

役割分担	内容
市民	○地域福祉へ関心を向け、自ら積極的に活動に参加しましょう。
社会福祉協議会	○ボランティア養成講座を充実させ、ボランティアに気軽に参加できる環境づくりに努めます。 ○ボランティア推進協議会等のボランティア組織の育成を支援します。 ○地域の新たなボランティア活動団体の立ち上げや育成を支援します。
行政	○ボランティア養成講座の充実やボランティアでの参加機会の環境づくりを行います。 ○新たなボランティア団体の立ち上げや育成を支援します。

施策2 地域福祉リーダーの育成

役割分担	内容
市民	○リーダー育成の研修に対しても積極的な参加を心がけましょう。
社会福祉協議会	○先進的な取り組みの勉強会の支援を行います。 ○リーダー育成研修を行い、地域福祉の推進役となるリーダーの育成に努めます。
行政	○地域福祉の推進役となるリーダーの育成を支援します。



## 4. 基本目標 4 多様化する福祉課題に対応する支援体制づくり

### 基本方針 4-1 情報提供及び支援ネットワークの充実

#### 【現状と課題】

様々な生活課題や福祉課題を抱える市民にとって、素早く適切に対応できる相談支援体制はとて大切なものとなります。市では各課等窓口において、様々な相談に応じています。また、社会福祉協議会においても相談体制を整えています。今後も現行の体制を維持するとともに、相談内容の複雑化に合わせ、職員の専門知識の取得及び資質向上に取り組みます。さらに、早期に各相談窓口につなげ、適切な支援が図られるよう、身近な地域、社会福祉協議会、市とのネットワークを強化し、支援ネットワークづくりの充実を図る必要があります。

さらに、相談窓口や様々な福祉サービスに関する情報を適切に市民へ周知することで、支援につながることも期待できるため、広報紙やホームページ等を利用した情報提供に取り組んでいく必要があります。また、情報通信技術の発展によりスマートフォンやタブレット端末等新たな媒体を活用して市民が情報収集を行っていることから、情報提供手段の充実に努めていく必要があります。

#### ◆ 地域福祉懇談会での意見

- いろいろな所をコーディネートする総合的な人（所）がほしい。
- サポートブックが活用されていない。
- 障害者施設が少ない。

サポートブック：障害者（児）又はその保護者が初めて接する学校の先生や施設の支援員に、自身の特性や接し方を理解してもらうための支援方法の一つ



【今後の取り組み】

施策1 情報提供の充実

役割分担	内容
市民	○福祉サービス等の情報に関心を持ち、有効に活用しましょう。 ○地域団体の広報紙に目を通す等、福祉活動に関する情報を積極的に得るよう心がけましょう。
社会福祉協議会	○社協だよりや社協ホームページ等を活用し、市民がより情報を入手しやすいように提供します。 ○地域支援を通じて、各地域の身近な課題の把握に努め、地域問題の解決に向けた支援に役立ていきます。
行政	○広報や市ホームページ等の工夫や改善により、サービス情報を一層分かりやすく提供します。 ○サービス等の情報が行き届くよう、支援を必要とする人に直接関わる民生委員等への福祉情報の提供を充実します。

施策2 支援ネットワークの充実

役割分担	内容
市民	○身近な相談窓口に関心を持ち、不安や悩みがある場合に一人で悩まずに相談するよう心がけましょう。 ○民生委員等の身近な相談窓口を通じ、相談しましょう。
社会福祉協議会	○民生委員を始めとする身近な地域（福祉）関係者との支援ネットワークを作ります。 ○地域のソーシャルワーカーや包括支援センター、障害者相談支援事業所等が連携し、身近で総合的な相談窓口の充実を図ります。 ○障害者相談支援事業所等の人材を育成し、相談機能の充実に努めます。
行政	○相談事業の利用者に対し、的確かつ迅速に対応し、充実した支援をするため、各課等や社会福祉協議会等との連携を強化します。



## 基本方針4-2 安心して子どもを産み育てられる環境づくり

### 【現状と課題】

少子高齢化や核家族化の進行、共働き世代の増加のため、子育てに関するサービスは著しく多様化しています。これまで、国の少子化対策を中心に、子育てと仕事の両立を支援し、子どもを産み育てやすい環境整備を行うための様々な施策が推進されてきました。

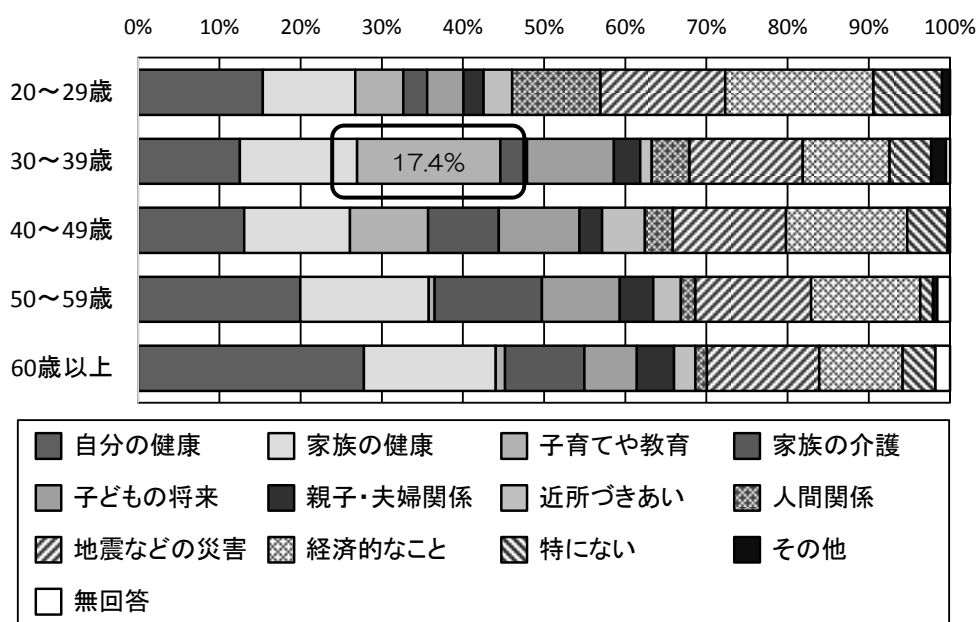
急速な少子化がさらに進み、社会経済全体に極めて深刻な影響が懸念されることから、「次世代育成支援対策推進法」が制定され、さらに子ども子育て関連三法に基づき、「子ども・子育て支援新制度」が施行され、更なる子育て支援事業の充実が進められています。

また、碧南市においても「子どもを生むなら碧南市、子育てするなら碧南市」を目指し、子育て支援につながる事業を進めてきました。

アンケートでは、「日々の暮らしの不安」について、「子育てや教育」が30歳代では他の年代よりも高く、17.4%となっています。

今後、新しい制度に基づき進められる子育て支援事業に対して、地域全体で対応できる支援体制づくりを検討していきます。

#### ◆ アンケート調査：「日々の暮らしでの不安や困り事」



#### ◆ 地域福祉懇談会での意見

- 子どもが遊べる公園が少ない。
- 小学生や中学生とあいさつを交わっていて、子どもたちとの良好な関係がある。

【今後の取り組み】

施策1 子育て支援体制の充実

役割分担	内容
市民	○市の広報誌等を通じて情報を収集し、必要なサービスを利用しましょう。
社会福祉協議会	○地域と連携し、地域の中で安心して子どもを育てられる環境づくりに取り組みます。
行政	○仕事と子育ての両立を支援するため、子育て支援事業の充実を図ります。

施策2 ボランティア等による子どもの遊び場づくり

役割分担	内容
市民	○地域住民やボランティアが行っている行事や講座に積極的に参加しましょう。
社会福祉協議会	○各地区の老人クラブやボランティアと連携を図り、各地域の小中学校や公民館等で行われている既存の行事も活用しながら、こどもまつりの充実に努めます。 ○子どもと高齢者との交流の場を作り、多世代で遊びを通じてふれあう機会づくりを進めます。
行政	○地域住民やボランティアが主体となって運営する取り組みを支援します。 ○子どもたちが外でのびのびと遊ぶことができるように、地域住民による自然体験学習の機会づくりを支援します。

施策3 子どもに関わる団体の情報集約とネットワークづくり

役割分担	内容
市民	○子どもを含めた親同士の積極的な交流を心がけましょう。
社会福祉協議会	○地域の子育てに関する情報を集約し、子育てに関わる情報発信を行うとともにネットワークづくりを進めます。
行政	○子育て支援センター等を通じて、子育てに関わる情報発信のネットワークづくりを進めます。

## 基本方針4-3 高齢者・障害者・生活困窮者の自立支援

### 【現状と課題】

高齢者及び障害者への福祉施策において、福祉サービスは自立に向けた自らの努力を支援し、安心した暮らしを支えていくために不可欠なものとして提供されています。生涯にわたって住み慣れた地域で生活をするためには、必要な福祉情報が容易に入手できることや、悩み事・心配事の相談が気軽に受けられ、必要なサービスが適切かつ円滑に利用できることが重要です。

また、社会経済の構造的な変化や社会的孤立により、生活保護受給者や生活の困窮に至るリスクの高い層が増加していることを踏まえ、既存のサービスによらない支援を強化するため、生活困窮者自立支援法が平成27年4月から施行されました。この制度では、個別の問題解決、自立への支援だけでなく、誰もが互いに支え合える地域を作っていくことが目標とされており、地域福祉を拡充し、まちづくりを進めていく上で、重要な施策として位置づけられています。

このため、市や社会福祉協議会では、地域の身近な民生委員等や専門相談員等による個別相談を通じて、生活課題の発見と生活実態に沿った福祉サービスの質の確保及び向上に努めます。また、福祉サービス利用者の介護者等の介護疲れを予防や解消するための支援も必要です。

福祉に対するニーズは年々複雑多様化しており、日常の生活には欠くことができない生活課題であっても、自ら相談窓口へ出向いて相談する事が困難なケースやサービス給付要件に該当しないケース、公的制度では対応できないケース等があります。これらを地域住民自らの問題と認識し、課題を共有して解決に向かうことも今後必要があります。

#### ◆ 地域福祉懇談会での意見

- 家に閉じこもっている高齢者がいるのではないか。
- 障害者が働ける場所が欲しい。
- 障害者や生活保護者に対する偏見がある。

【今後の取り組み】

施策1 福祉サービスの質の確保及び向上

役割分担	内容
市民	○身近な生活課題に関心を持ち、周囲の困っている人へ気軽な手助けをしましょう。
社会福祉協議会	○身近できめ細かな生活支援のニーズ把握に努め、必要なサービス・生活サポートの仕組みづくりを支援します。 ○福祉課題に応じた、在宅支援メニューの改善・開発を支援します。
行政	○サービス利用者のニーズを把握した上で、きめ細かな福祉サービスの提供を促進します。 ○福祉サービス事業所への監査を実施し、サービスの低下を防止するとともにサービス向上に向けた方策を検討します。

施策2 介護者等の支援

役割分担	内容
市民	○介護者が一人で悩みを抱え込まないように、介護者教室や当事者組織の活動に参加するよう声掛けを行いましょう。 ○増加傾向にある認知症等の対処の仕方に関して、講習会等に参加し、介護者への理解を深めましょう。
社会福祉協議会	○介護者の交流会等、介護者支援の場を充実します。 ○介護者教室を開催し、介護に関する知識の習得及び介護者同士の交流を支援します。
行政	○介護保険法や障害者総合支援法を踏まえたサービスの内容や仕組み、手続きの方法について引き続き周知を図ります。

施策3 生活困窮者の自立支援

役割分担	内容
市民	○隣近所で困っている人や気になる人を見かけたら声掛けをしましょう。また、状況に応じて相談につなげていきましょう。 ○自身に困り事があれば、近所の人や地区の民生委員等に相談しましょう。
社会福祉協議会	○関係機関と連携し、生活に困っている方を把握する体制を整備します。 ○生活に困っている方の相談に応じ、その人の思いに沿って、自立に向けての支援を行います。 ○就労に向けて必要な支援を行います。
行政	○生活困窮者の相談に応じ、関係機関と連携し、必要な情報提供や対応、助言を行います。

## 5. 基本目標5 安心・安全を高める地域づくり

### 基本方針5-1 家庭・近所・地域での防災対策の充実

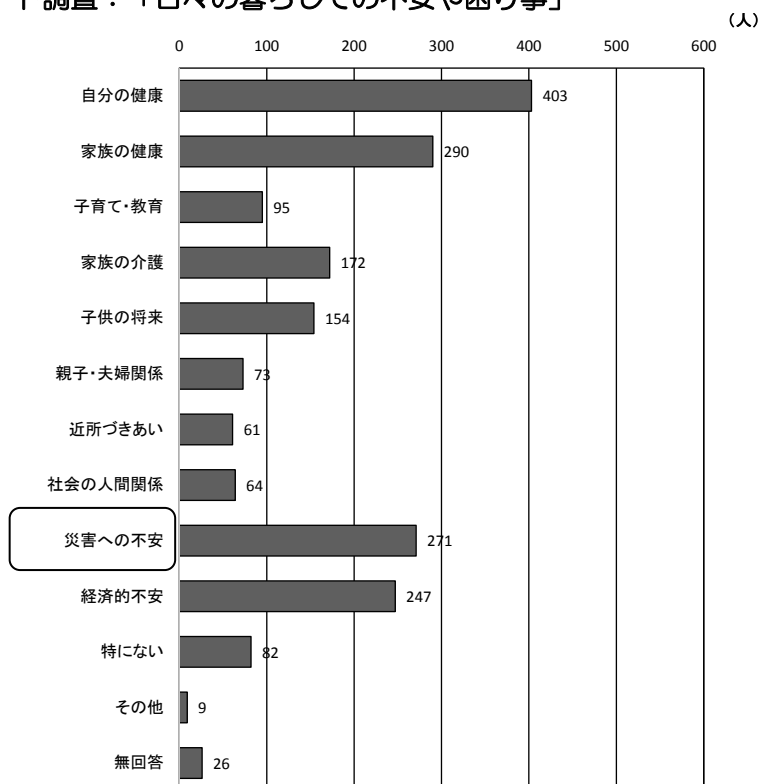
#### 【現状と課題】

「碧南市地域防災計画」では、要配慮者に配慮した情報伝達体制の推進及び教育・広報活動、また、避難行動要支援者を適切に避難誘導し、安否確認を行うため、地域住民、自主防災組織、民生委員、介護保険事業者、障害福祉サービス事業者、ボランティア団体等の多様な主体の協力を得ながら、平常時より、避難行動要支援者に関する情報を把握の上、関係者との共有に努めることとしています。

アンケートでは、「日々の暮らしの中での不安」について、「災害への不安」が高い数値を示しています。

このため、今後も引き続き、地域ぐるみにより避難行動要支援者の対策を推進します。また、平常時から災害への備えとして、自主防災会の育成と活動を支援し、地域の防災力強化に取り組みます。

#### ◆ アンケート調査：「日々の暮らしでの不安や困り事」



#### ◆ 地域福祉懇談会での意見

- 防災活動に関心が薄い。
- 海拔が低く、津波が心配
- 防災連絡網が分からない。

【今後の取り組み】

施策1 災害時の支援体制づくり

役割分担	内容
市民	○自主防災会の防災訓練や市の総合防災訓練等、地域の非常時に備えた訓練に積極的に参加しましょう。 ○平常時から地域の方とつながりを持ち、顔の見える関係を築きましょう。
社会福祉協議会	○地域と連携し、災害等の非常時に備えた訓練を実施します。 ○避難行動要支援者の支援に備え、地域と常に連携ができる体制づくりをします。
行政	○大規模災害に備えた避難所運営訓練や、資機材取扱い訓練等自主防災会と協力し、防災訓練を実施します。

施策2 災害ボランティアと自主防災会との連携

役割分担	内容
市民	○防災リーダー養成講座等、各種防災に関する講座にも積極的に参加しましょう。 ○自主防災会の訓練に参加しましょう。
社会福祉協議会	○防災リーダー養成講座に自主防災会の方にも参加を呼びかけ、防災知識の普及・啓発に努めます。 ○防災ボランティア等を中心とした地域での自主的な防災活動を支援します。
行政	○自主防災会の強化を図るとともに、各地域において大震災を想定した防災訓練を行う等、地域での防災対策を支援します。



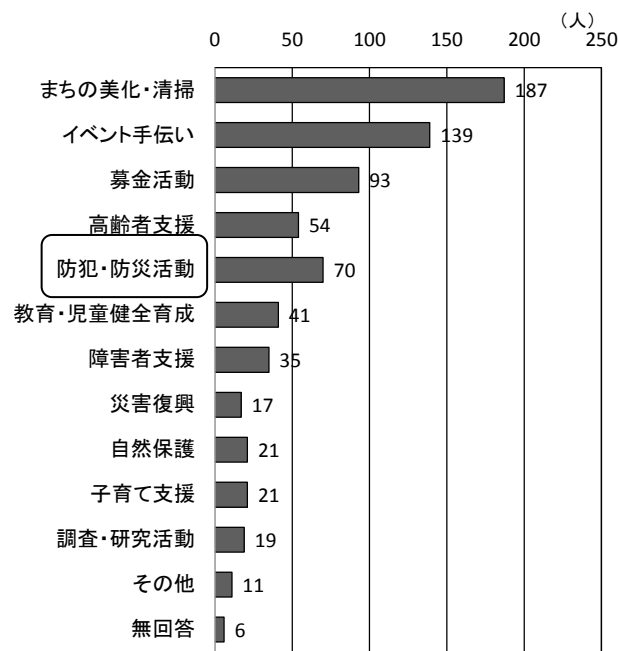
## 基本方針5-2 地域の見守り・防犯活動の推進

### 【現状と課題】

地域において安心して快適な生活を送るためには、その基盤となる居住環境の整備や交通事故や犯罪から生活を守るために必要な対策を講ずるとともに、日常の見守り活動及び地域ぐるみでの防犯対策の推進が必要になっています。

安心・安全な地域を実現するためには、市民一人ひとりが地域に対して、気配り・目配り・思いやりの心を持ち、日常から助け合い、支え合うことが基本となり、非常時においても地域が一丸となった対応へとつながります。

#### ◆ アンケート調査：「参加したボランティア内容」



#### ◆ 地域福祉懇談会での意見

- 空き巣被害が多い。
- 交通マナーが悪い人がいる。



【今後の取り組み】

施策1 見守り活動の推進

役割分担	内容
市民	○子どもの安全対策として、登下校時の見守りに参加しましょう。 ○子どもの安全等に対し、保護者が関心を持ち、地域の見守り活動等に参加しましょう。
社会福祉協議会	○民生委員やボランティア・市民活動団体、老人クラブ等との連携を図りながら、子どもや高齢者の見守り活動を支援します。
行政	○地域の自主的な見守り活動を支援します。 ○小中学校等へ寄せられる不審者情報を電子メールにて周知し、保護者へ注意を促します。

施策2 地域ぐるみでの防犯対策の推進

役割分担	内容
市民	○地域での防犯パトロールに参加しましょう。
社会福祉協議会	○高齢者の悪質商法対策等、防犯に関する情報を提供していきます。 ○近所のつながりを強め、地域の防犯活動を支援します。
行政	○犯罪の発生状況や特徴をホームページ等で周知するとともに、防犯教室を開催します。 ○青色回転灯を装着したパトロール車による市内巡回パトロール活動を実施するとともに、地域における防犯パトロールを支援します。

### 基本方針5-3 権利擁護の充実

#### 【現状と課題】

市民の人権意識や福祉意識は、支え合い・助け合いの地域づくりを進めるにあたって基礎となるものです。特に、地域における住民同士のつながりや相互扶助の関係が希薄化する中において、改めて地域福祉の必要性や理念等を、市民全体に浸透させていくことが重要となります。

今後、認知症高齢者や障害者（知的障害者及び精神障害者）の高齢化への対応として、権利擁護の推進は重要な位置づけとなっています。市においても成年後見制度を推進するため、成年後見支援センターの設置に向けた検討を行っています。

後は、地域でも判断能力の不十分な人の地域生活の支援や虐待の防止・予防体制の充実を図る必要があります。

このため、権利擁護に関する市民への周知及び啓発は、市や社会福祉協議会の広報紙を始めインターネット等様々な広報媒体を活用するとともに、各種イベントや人権週間、障害者週間等に合わせ、取り組む必要があります。

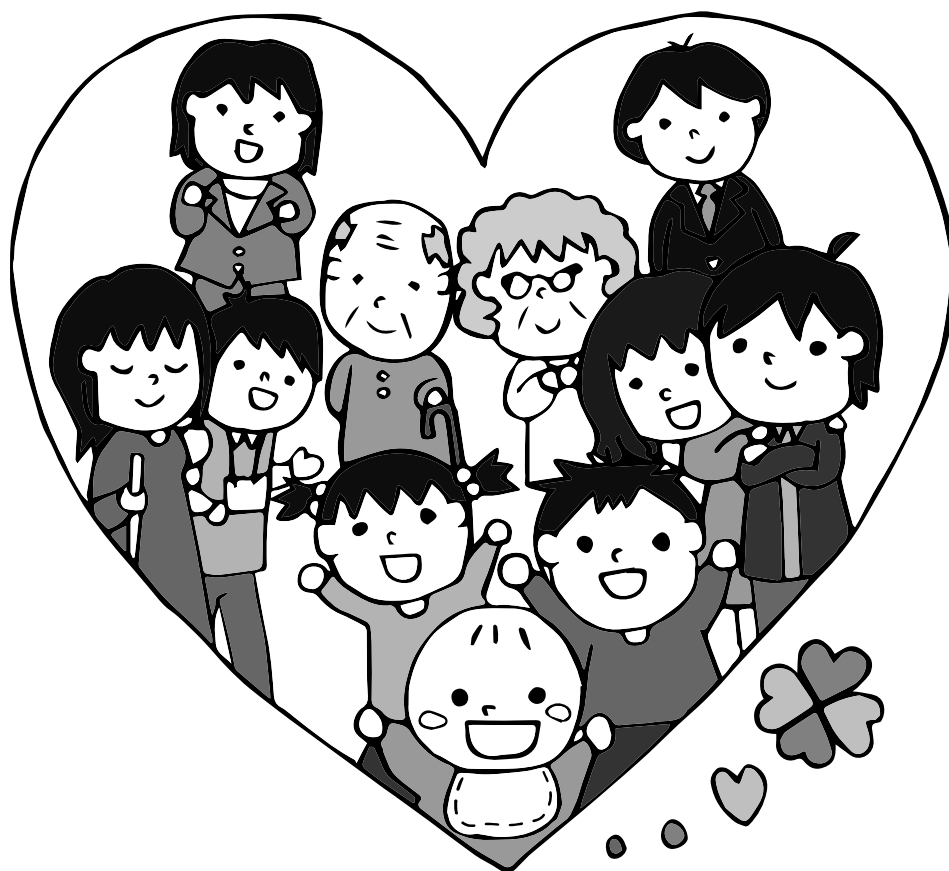
#### ◆ 地域福祉懇談会での意見

○障害者や生活保護受給者への偏見がある

【今後の取り組み】

施策1 権利擁護の推進

役割分担	内容
市民	○一人暮らしの高齢者や障害者が悪質商法等の被害に遭わないように見守りや声かけを行いましょう。
社会福祉協議会	○高齢者や障害者、子どもの様々な権利擁護に関する総合相談体制の充実を図り、その人らしい生活の実現に向けた支援を行います。 ○地域において虐待、成年後見制度等をテーマにした権利擁護に関する講習会を開催し、誰でも安心して暮らせる地域づくりを進めます。
行政	○権利擁護に関する制度の普及、浸透を図るため、成年後見支援センターを設立し、情報提供や啓発を行い、対象者の把握や利用促進に取り組みます。



## 第3章 計画の推進

### 1. 計画の推進

#### 1) 計画の推進体制

地域福祉の推進は、市民を始めとして地域団体、ボランティア・市民活動団体等、社会福祉協議会、市がそれぞれの役割を果たし、互いに協力・支援しながら、地域の福祉力向上に取り組んでいかなければなりません。

しかし、地域の生活課題は、複雑・多様化しており、地域だけでは解決できない課題も多く、これらを解決するためには、重層的な地域内での支援とともに、専門的な支援による対応が欠かせません。

今回、地域福祉計画と地域福祉活動計画とを一体的に策定したことを契機として、市と社会福祉協議会は強い連携のもと、実効性を確保しつつ計画を進めます。

#### 2) 計画の普及啓発

本計画の普及・啓発に向けては、計画書や概要版を関係機関へ配布するとともに、市と社会福祉協議会の広報誌やホームページ等を通じて周知します。

#### 3) 計画の進捗管理・評価

本計画の実効性を高めるため、PDCA（計画（Plan）、実行（Do）、評価（Check）、改善（Act））サイクルにより、市関係各課等や社会福祉協議会において、毎年それぞれの進捗状況を取りまとめると同時に、各地域で地域福祉懇談会の推進を図り、市民からの意見集約に努めます。次に「地域福祉計画推進委員会」において、それらを総合的に評価し、計画を進めます。

## 資料編

## 1) 平成27年度碧南市地域福祉計画策定委員会委員名簿

	役職名	委員氏名	団 体 名
1	委員長	杉浦 紀政	碧南市民生委員児童委員協議会
2	職務代理	杉浦 三代枝	碧南市社会福祉協議会
3		鈴木 達夫	碧南市連絡委員
4		禰宜田 知司	碧南市老人クラブ連合会
5		岡本 康子	碧南市主任児童委員
6		石川 繁夫	碧南市身体障害者福祉協会
7		牧野 昭彦	碧南市手をつなぐ育成会
8		對馬 幸司	社会福祉法人樫の木乳幼児福祉会
9		玉田 久美	碧南市健康推進員
10		榊原 幸弘	碧南市おやじの会連絡会
11		永坂 幸子	碧南市ボランティア連絡協議会
12		倉内 三代子	助けあいの会 さわやか碧南
13		鳥居 寛英	碧南保護区保護司会 碧南支部
14		永坂 昭彦	碧南市小中学校校長会
アドバイザー			
		野尻 紀恵	日本福祉大学

## 2) 碧南市地域福祉計画策定委員会規程

平成17年5月30日

訓第12号

改正 平成21年2月17日訓第4号

### (設置)

第1条 碧南市地域福祉計画を策定するに当たり、広く市民の要望及び意見を反映させるため、碧南市地域福祉計画策定委員会（以下「委員会」という。）を置く。

### (組織)

第2条 委員会は、委員15人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱する。

- (1) 識見を有する者
- (2) 各種団体の代表者
- (3) 関係行政機関の職員

3 委員の任期は、碧南市地域福祉計画が策定されるまでの期間とする。

### (委員長)

第3条 委員会に委員長を置く。

2 委員長は、市長が任命する。

3 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

4 委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代理する。

### (会議)

第4条 委員会は、委員長が招集する。

2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

### (庶務)

第5条 委員会の庶務は、福祉こども部福祉課において処理する。

### 附 則

この訓は、平成17年5月31日から施行する。

### 附 則（平成21年2月17日訓第4号）

この訓は、平成21年4月1日から施行する。

## 3) 計画策定の経緯

月日	年月日	
平成26年度		
8月	アンケート調査	住民基本台帳（20歳以上）から無作為に抽出した1,500人を対象に、第48回碧南市政アンケート内にて実施 回答率：54.9%
平成27年度		
6月2日	第1回策定委員会 (作業部会と同時開催)	・講話 「地域福祉計画」について アドバイザー 日本福祉大学 野尻紀恵准教授 1 第1期地域福祉計画及び第3次社協地域福祉活動計画の評価の整理について 2 地域福祉に関するアンケート結果について 3 第2期地域福祉計画の考え方について
6月12日～ 6月19日	作業部会	第1期碧南市地域福祉計画の評価について
7月7日	第2回策定委員会	1 第1期地域福祉計画及び第3次社協地域福祉活動計画の評価結果について 2 地域福祉に関するアンケートの分析について
7月10日～ 8月24日	第1回地域福祉懇談会	市内6地区（①新川、②中央、③大浜、④棚尾、⑤旭、⑥西端）で地域住民を対象に実施 1 講話「地域福祉」とは（野尻准教授） 2 ワークショップ（地域の良さ・強み、地域の課題・困りごとについて）
8月27日～ 9月29日	第2回地域福祉懇談会	市内6地区（①新川、②中央、③大浜、④棚尾、⑤旭、⑥西端）で地域住民を対象に実施 1 講話「地域の課題解決に向けて」 2 ワークショップ（これからどのように暮らしていきたいか、この暮らしを実現するために自分たちが地域でできることについて）
10月1日	第3回策定委員会	1 地域福祉に関するアンケートの分析について 2 地域福祉懇談会の実施状況について 3 第2期地域福祉計画の策定について 基本理念及び基本目標の設定
10月28日～ 11月5日	作業部会	第2次地域福祉計画の基本目標の確認について



資料編

11月17日	第4回策定委員会	第2次地域福祉計画の策定について 計画（素案）の確認
12月16日～ 1月15日	パブリックコメント実施	第2次碧南市地域福祉計画（素案）に対するパブリックコメント
2月5日	第5回策定委員会	第2次地域福祉計画の策定について パブリックコメント結果 計画の変更事項 最終案の確認

## 4) 各地区地域福祉懇談会実施録

### (1) 新川地区

#### ● 第1回 まとめ

「K（地域の良さ・強み）」では「高齢者が元気」、「子どもたちが活発」等の意見がありました。また「あいさつ運動ができています」等、地域での交流についての意見も多く挙げられています。

一方で、「P（地域の課題・困りごと）」に関しては、「新しく地域に来た人の顔が分からない」、「少子高齢化」等の課題が挙げられています。また「商店街が不振」等、地域の活性化についての課題も挙げられています。

#### ・グループごとの意見

日常生活での課題や人の活動（つながり）等、福祉に関わる内容に焦点を絞っています。

	K（地域の良さ・強み）	P（地域の課題・困りごと）
グループ1	<p>子どもの遊べる施設がたくさんある。（図書館、明石公園、散歩道、キネマ通りの花）</p> <p>神社と祭りがある。</p> <p>大晦日に神社に集まる。</p> <p>きらきらウォークがある。</p>	<p>新川の文化に馴染んでくれない人が多い。</p> <p>誰が住んでいるのか分からない。（マンション・アパート）</p> <p>高齢化</p> <p>避難所が分からない。</p> <p>まちづくりの意識が薄い。</p> <p>子どもは祭りより野球やサッカーに行ってしまう。</p>
グループ2	<p>ごみの分別当番の時にあいさつをしてもらえ</p> <p>る。</p> <p>地区同年会がある。</p> <p>神社が多い。</p> <p>新川小のマーチングが楽しそう。</p> <p>声掛けしてくれる人が多い。</p> <p>地域のつながりがある。</p>	<p>町内会・消防団の人手不足</p> <p>ボランティアの参加者が少ない。</p> <p>行事への参加が少ない。</p> <p>他地域から移住の人との関係</p> <p>閉じこもりがちの一人暮らしの方がいる。</p> <p>外国人が地域に溶け込めていない。</p>
グループ3	<p>神社が地区の中心にある。</p> <p>部落が9つに分かれている。</p> <p>公共施設がたくさんある。（芸術文化センター、図書館）</p> <p>高齢者が多く、老人クラブが活発</p> <p>あいさつ運動ができています。</p>	<p>商店街が不振</p> <p>アパート住民が町内会に入りにくい。</p> <p>老人が多い、子どもが少ない。</p> <p>一人暮らし、認知症、寝たきりの方がいる。</p>

	K（地域の良さ・強み）	P（地域の課題・困りごと）
グループ4	老人会組織がしっかりしている。 隣組がある。 中学生がイベントに積極的である。（ボランティア、元気ッス） 地区がまとまっている。 あいさつ運動ができています。	外国人が増えたので言葉の問題が出てきている。 高齢者が多い。 アパートの住民が町内会に入らない。 空き家が多い。 商店街が不振
各グループの主な意見は、以下のとおりです。		
全体	高齢者が元気 中学生が積極的にイベントに参加している。 地区のお祭りやイベントが盛ん。 子どもの遊べる施設がたくさんある。（明石公園、図書館、あいくる等）	少子高齢化が進んでいる。 新しく入ってきた人やアパート・マンションの人の交流がない。 町内会、消防団の人手不足 外国人増加に伴う言葉の問題

## ● 第2回まとめ

第1回で出した「K（地域の良さ・強み）」を活かし、「P（地域の課題・困りごと）」をクリアしながら、より良い暮らしをしていくために「望む暮らし」、「望む暮らしを実現するために自分たちにできること」、「実行していくためのスローガン」を各グループで考えました。

### ◇ グループ1（+グループ4） ◇

望む暮らし	自分たちにできること
<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちが安全に過ごせる町</li> <li>地域のつながりが強い町</li> <li>住んでいる地区以外の人とも交流したい。</li> <li>防災に強い町</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域で話し合う場所をつくる。</li> <li>地域のリーダーを育てる。</li> <li>子どもを通じて親にも町内行事に参加してもらい、地域のつながりを広げる。</li> </ul>
【スローガン】 「多世代の方が地域行事に定期的に参加することでつながりを広げよう」ということから、 <b>毎月つながろう！しんかわ</b> となりました。	

※第2回では、グループ1とグループ4は合同で実施

### ◇ グループ2 ◇

望む暮らし	自分たちにできること
<ul style="list-style-type: none"> <li>死ぬまで健康で元気に老後を暮らす。</li> <li>地域の人とつながりがある暮らし</li> <li>好きなことをしながら適度に周りの人とコミュニケーションをとっていききたい。</li> <li>子どもが安心して外で遊べる環境</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>町内会のメリットをPRして、行事に参加してもらおう。</li> <li>下校時に高齢者が見守りをする。</li> <li>犬（ペット）を通じたコミュニケーション</li> </ul>
【スローガン】 「お年寄りの知識を活かして、町の人をつなげる」ということから、 <b>お年寄りが輝けるまち しんかわ</b> となりました。	

◇ グループ3 ◇

望む暮らし	自分たちにできること
<ul style="list-style-type: none"> <li>・笑顔が絶えない暮らし</li> <li>・健康で毎日明るい暮らし</li> <li>・計画や目標、生きがいのある暮らし</li> <li>・毎日やりたいことが見つかる生活</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあいサロンの対象を広げる。</li> <li>・親子が地域の人と交流できる機会をつくる。</li> <li>・「花かざり運動」の真意をPRする。</li> </ul>
<p>【スローガン】  「花かざり運動と音楽で地域の人をつなげていく」ということから、  <b>音楽でつなぐまち ～花かざり 地区ざかり～</b>となりました。</p>	



明石公園



きらきらウォーク

## (2) 中央地区

## ● 第1回 まとめ

「K（地域の良さ・強み）」では「子どもたちが明るく元気・素直」、「近所同士の付き合いがある」等の意見がありました。また「イベントが賑やか」等、地域の様子についての意見も多く挙げられています。

一方で、「P（地域の課題・困りごと）」に関しては、「子どもの遊ぶ場所が少ない」、「地域の高齢化」等の課題が挙げられています。また、「町内会等の人手不足」等地域でのつながりについての課題も挙げられています。

## ・グループごとの意見

日常生活での課題や人の活動（つながり）等、福祉に関わる内容に焦点を絞っています。

	K（地域の良さ・強み）	P（地域の課題・困りごと）
グループ1	子どもたちが明るく元気 お年寄りの人たちが活発 区内のイベントに参加者が多く集まる。	神社の音楽部の後継者がいない。 子どもが外で遊ぶ機会・場所が少ない。 高齢者が多い。
グループ2	子どもたちのお囃子が盛ん。 秋祭りが盛ん。 区民館での活動が行われている。	外で遊ぶ子どもが少ない。 老人クラブに入りたがらない人が増えた。 町内会や老人会の人手不足 新しくできた家と近所の付き合いがない。
グループ3	子どもが素直 まじめな人が多い。 あいさつ運動	地域のつながりが薄い。 新しい住民が多い。 公園に子どもが少ない。 公園でボール遊びができない。
グループ4	子どもたちの見守り隊がある。 見守り隊と子ども間に挨拶がある。 隣組の人達と皆さんと気持ちよく会話ができる。	隣組との付き合いが薄い。 新しい家が増え、顔を知らない人が増えてきた。 防災連絡網が分からない。 老人会や消防団のなり手がいない。
各グループの主な意見は、以下のとおりです。		
全体	近所同士の付き合いがある。 地域の子どもたちとのつながりがある。 子どもやお年寄りが利用できる公園がある。 区内のイベントに参加者が多く集まる。	外で遊ぶ子どもが少ない。 新しくできた家と近所の付き合いがない。 町内会や老人会等の人手不足 隣組との連絡が薄い。

## ● 第2回まとめ

第1回で出した「K（地域の良さ・強み）」を活かし、「P（地域の課題・困りごと）」をクリアしながら、より良い暮らしをしていくために「望む暮らし」、「望む暮らしを実現するために自分たちにできること」、「実行していくためのスローガン」を各グループで考えました。

## ◇ グループ1 ◇

望む暮らし	自分たちにできること
<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心、安全で不安の少ない暮らし</li> <li>・子どもがのびのび育つ地域</li> <li>・近所や地域の人と仲良く助け合える暮らし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異世代や各団体同士の交流の機会をつくる。</li> <li>・婦人会との協力と独居の方への声掛け活動</li> <li>・みんなで交流、みんなで声掛けをする。</li> </ul>
【スローガン】 「朝のラジオ体操を活用することで、子どもやお年寄りまで交流する」ということから、 <b>朝活</b> となりました。	

## ◇ グループ2 ◇

望む暮らし	自分たちにできること
<ul style="list-style-type: none"> <li>・困った時に地域でお互いに助け合える暮らし</li> <li>・世代間の交流が気軽にできる。</li> <li>・安心してのんびり暮らせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異世代や各団体同士の交流の機会をつくる。</li> <li>・ボランティアをしている中学生の強みを活かす。</li> <li>・公民館の活用や地区の運動会の実施</li> </ul>
【スローガン】 「人同士や団体同士を楽しい行事等でつなげる」ということから、 <b>楽しさつなく 住んで良かった中央！</b> となりました。	

## ◇ グループ3 ◇

望む暮らし	自分たちにできること
<ul style="list-style-type: none"> <li>・近所や地域の人同士で、困った時に助け合ったり、相談し合える暮らし</li> <li>・子どもが安心して外で遊べる。</li> <li>・あいさつがあふれ、笑顔いっぱいの暮らし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昔の遊び体験ができる行事をする。</li> <li>・男の調理実習や親父の会を復活させ、男の人も地域に参加できるようにする。</li> </ul>
【スローガン】 「男の人が地域に参加することでもっと活発になるのでは」ということから、 <b>男が変われば地域が変わる！！</b> となりました。	

◇ グループ4 ◇

望む暮らし	自分たちにできること
<ul style="list-style-type: none"> <li>誰とでもあいさつができる。</li> <li>近所の人やどんな人が把握できる機会がある。</li> <li>ゆったりと安心した暮らし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>めげずにあいさつをする。</li> <li>ゴミ捨ての時や学校の前等であいさつをする。</li> <li>パトロール×ウォーキングの活動を行う。</li> </ul>
<p>【スローガン】                      「積極的にあいさつをし、地域内での知り合いを増やしていく」ということから、  <b>あいさつで 知り合い増える 中央地区</b>となりました。</p>	



元気ッス！へきなん



碧南市文化会館

## (3) 大浜地区

## ● 第1回 まとめ

「K（地域の良さ・強み）」では「近所づきあいがあり、仲が良い」、「お祭りやイベントが盛ん」等の意見がありました。また「地域の活動に協力的」等、地域参加率の良さについての意見も多く挙げられています。

一方で、「P（地域の課題・困りごと）」に関しては、「消防団員等のなり手不足」、「高齢者世帯が多い」等の課題が挙げられています。また「引っ越してきた人の地域への協力が乏しい」等、地域でのつながりについての課題も挙げられています。

## ・グループごとの意見

日常生活での課題や人の活動（つながり）等、福祉に関わる内容に焦点を絞っています。

	K（地域の良さ・強み）	P（地域の課題・困りごと）
グループ1	住んでいる人同士の繋がりが強い。（野菜がもらえとか。） お年寄りが元気 地域の活動に協力的である。 元気がよく、ノリが良く、人情が厚い。 お互い様の精神がある。 祭りが派手	高齢者世帯が増えている。 消防団のなり手がいない。 団体の繋がりが無い。 新しく入ってきた人との付き合いがない。 障害者・生活保護受給者に対する偏見 消防団やお祭りの人手不足 地区が広く、地域性が異なる。 小売店が減っている。
グループ2	地区との協力 顔見知り同士 大人と子どもとのつながりの強さ 犯罪が少ない。 餅投げがある。	保守的、閉鎖的な面もある。 外国人居住者とのコミュニケーションがない。 ボランティア活動に決まった人ばかり参加している。 高齢者の独り暮らしが多い。 神社仏閣の管理費の捻出困難。維持管理が心配
グループ3	おとなりさんと仲良し 公園でバスケットをして遊ぶ子どもが元気である。 子育て相談できる人がいる。 犬の散歩をしている人が多い。 同年代の付き合いが良い。 地域のつながりがある。	買物難民の発生 人手不足（消防団・お祭り・町内会） 町外から引っ越ししてきた人が多くなり、地域活動への協力が乏しい。 高齢者の運転が心配 車がないと生活ができない地域
グループ4	人が優しい。 高齢者が元気である。 ボランティア活動が盛ん。 産業がたくさんある。 隣組等、近所付き合いが盛ん。 餅投げが盛大	遊べる施設がない。 高齢者世帯が多い。 防災訓練が少ない。 空き家が多い。 車がないと困る。



各グループの主な意見は、以下のとおりです。		
全体	<p>人情の厚い人が多い。</p> <p>近所づきあいがあり、仲が良い。</p> <p>お祭りやイベントが盛ん。</p> <p>高齢者が元気</p>	<p>お祭りや消防団等の人手不足</p> <p>高齢者世帯が多い。</p> <p>町外から引っ越してきた方や、外国人居住者との交流がない。</p> <p>買い物難民の発生</p>

## ● 第2回まとめ

第1回で出した「K（地域の良さ・強み）」を活かし、「P（地域の課題・困りごと）」をクリアしながら、より良い暮らしをしていくために「望む暮らし」、「望む暮らしを実現するために自分たちにできること」、「実行していくためのスローガン」を各グループで考えました。

### ◇ グループ1 ◇

望む暮らし	自分たちにできること
<ul style="list-style-type: none"> <li>・隣近所がお互いを思いながら暮らす町</li> <li>・子どもと一緒に遊べる集まりや催しがある。</li> <li>・安心安全な暮らし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的に話し合う場を設ける。</li> <li>・大きなイベントを行う。</li> <li>・空き家や公民館等の資源を活用して、気軽に立ち寄れるサロン等、交流の場を確保する。</li> <li>・グループの交流の接点、拠点をつくる。</li> </ul>
<p>【スローガン】</p> <p>「それぞれの団体で協力してイベントを行うことでつながれないか」ということから、</p> <p><b>あつまりん大浜</b>となりました。</p>	

### ◇ グループ2 ◇

望む暮らし	自分たちにできること
<ul style="list-style-type: none"> <li>・友人同士が集い、楽しく笑顔でいられる生活</li> <li>・（防災面で）安心して暮らせる生活</li> <li>・生きがいのある暮らし</li> <li>・つながり、支えあいを感じながらの暮らし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昔神社に人が集まる文化があった。</li> <li>→神社離れにより愛着がなくなっている。</li> <li>→神社や公民館を有効活用して、遊べる場や交流する場を確保する。（親子ふれあい草取り、屋外シアター）</li> </ul>
<p>【スローガン】</p> <p>「神社に愛着を持ってもらって地域で守っていく」ということから、</p> <p><b>神社・寺まちコミュニケーション</b></p> <p><b>～身近なところからつながる大浜～</b> となりました。</p>	

◇ グループ3 ◇

望む暮らし	自分たちにできること
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 誰とでも笑ってあいさつできる環境</li> <li>・ 人が賑わっている雰囲気や空気がある町</li> <li>・ 近所同士良好な関係がある暮らし</li> <li>・ 障害者が自由に歩き回れる町</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ごみ捨て場を活用してコミュニケーションをとる。</li> <li>・ 大人があいさつする心構えを持つ。</li> <li>・ 地域送迎ボランティア等による買物難民の解決</li> </ul>
<p>【スローガン】                      「あいさつをすることで少しずつ交流をもって助け合おう」ということから、  <b>あいさつがあれば買物難民（高齢化社会）が救える！！</b>                      となりました。</p>	

◇ グループ4 ◇

望む暮らし	自分たちにできること
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 笑顔でゆとりのある生活</li> <li>・ みんなと仲良く助け合える生活</li> <li>・ 災害に強い地域づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域で防災講座や防災訓練を行う。</li> <li>・ 趣味が活かせたり、活躍できる場をつくって、交流のきっかけをつくる。</li> <li>・ 小さな子どもがいる親への働きかけ</li> </ul>
<p>【スローガン】                      「様々な課題を希望に変えるため、日常生活でできることを」ということから、  <b>課題を希望に変える♪～人と人とのつながりを作ろう～</b>                      となりました。</p>	



大浜てらまちウォーキング



大浜漁港

## (4) 棚尾地区

## ● 第1回 まとめ

「K（地域の良さ・強み）」では「子どもたちが活発」、「協働意識がある」等の意見がありました。また「あいさつがある」等、地域の人とのつながりについての意見も多く挙げられています。

「P（地域の課題・困りごと）」に関しては、「町内会等のなり手がいない」、「高齢化・高齢世帯の増加」等の課題が挙げられています。また、「新しく地域に来た人との交流がない」等、居住年数が浅い人との関わりについての課題も挙げられています。

## ・グループごとの意見

日常生活での課題や人の活動（つながり）等、福祉に関わる内容に焦点を絞っています。

	K（地域の良さ・強み）	P（地域の課題・困りごと）
グループ1	お年寄りが子どもの通学の見守りをしてくれる。 お年寄りが元気 2世代・3世代家族が多い。 隣近所のお付き合いがある。	地域活動において、若い人の参加が少ない。 老人がのんびりする公園がない。 空き家が増え始めた。
グループ2	妙福寺のお祭りで賑わう。 回覧板による連絡が密である。 年寄りの力がある。	少子高齢化 核家族化等の家族構成の変化 町内のまとまり
グループ3	回覧板が必ず手渡しで届く。 あいさつがお互いに行える。 子どもの登下校の見守りがある。 老人世帯のゴミ出し等助け合いがある。 児童センターがある。	町内会離れ 高齢者（単身、高齢夫婦のみ）世帯の増加 核家族の増加 空き家の増加 徒歩で行けるスーパーが少なく、買い物に不便
グループ4	地区としてのまとまりがある。 高齢者や子どもが元気 敬老会、盆踊り等、お祭りが多い。	新しい人が隣組に入らない。 アパートの入居者や住宅が増え、若い方との関わりが少ない。 障害者が働ける場所が欲しい。 地区の役員や消防団のなり手がいない。
各グループの主な意見は、以下のとおりです。		
全体	近所同士の付き合いが良い。 地区としてのまとまりがある。 児童センターがある。 回覧板が必ず手渡しで届く。 妙福寺のお祭り	高齢化・高齢世帯の増加 町内会や地区役員、消防団等のなり手がいない。 新しい住民が隣組に入らない。（町内会離れ） 地域行事に若い人の参加が少ない。

## ● 第2回まとめ

第1回で出した「K（地域の良さ・強み）」を活かし、「P（地域の課題・困りごと）」をクリアしながら、より良い暮らしをしていくために「望む暮らし」、「望む暮らしを実現するために自分たちにできること」、「実行していくためのスローガン」を各グループで考えました。

## ◇ グループ1 ◇

望む暮らし	自分たちにできること
<ul style="list-style-type: none"> <li>・隣近所仲良く楽しい毎日を送りたい。</li> <li>・便利な生活だけど、もう少し地域が活性化してほしい。</li> <li>・老後の生活がしやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつを通じて顔見知りになる。</li> <li>・学校に高齢者が講師に行く等の世代間交流</li> <li>・空き家を借りて高齢者の集える場所をつくる。</li> <li>・防災訓練を通して、隣近所を知り、地域参加に繋げる。</li> </ul>
<p>【スローガン】</p> <p>「世代間交流で老後も生きがいのある町に」ということから、  <b>幸せな老後はTANAOから</b>となりました。</p>	

## ◇ グループ2 ◇

望む暮らし	自分たちにできること
<ul style="list-style-type: none"> <li>・やりたいことを自由にやる暮らし</li> <li>・友達に囲まれた笑顔のある町</li> <li>・地区の交流会を活発にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い人を町内会に引きこむ楽しい行事を行う。</li> <li>・新しい人も気軽に参加できる面白い行事を公民館から発信して行う。</li> </ul>
<p>【スローガン】</p> <p>「昔あったコミュニティを復活し、みんながふれあう機会を増やしたい」ということから、  <b>ふれあいのまち棚尾（TANAO）～新たに歴史をきざむ～</b>      となりました。</p>	

## ◇ グループ3 ◇

望む暮らし	自分たちにできること
<ul style="list-style-type: none"> <li>・近所の人と気軽に声を掛けられる関係をつくる。</li> <li>・若い人に地域に戻ってきてほしい。</li> <li>・気軽に寄れる、集まれるカフェが欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・回覧板や当番を利用して、近所の人と交流する。</li> <li>・子ども世代に地元の良さを伝える。</li> <li>・世代が関係なく交流できるサロンの設置</li> </ul>
<p>【スローガン】</p> <p>「交流の活性化と文化財の利用」ということから、  <b>大家族 学ぼう 遊ぼう つながろう！！</b>となりました。</p>	

◇ グループ4 ◇

望む暮らし	自分たちにできること
<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時に安心して避難できる場所が欲しい。</li> <li>・隣近所でお互いに楽しく暮らしたい。</li> <li>・子どもが将来安心して働ける場所が欲しい。</li> <li>・地区の行事に参加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災訓練を兼ねた、地区の住民全員参加イベントを行う。</li> <li>・高齢者も障害者も子どもも誰でもみんな参加できる機会づくり</li> <li>・バラバラになっている会をつなぐ組織づくり</li> </ul>
<p>【スローガン】  「地区コミュニティ協働によるまちづくりで、町に活気を」ということから、  <b>まちづくり協議会で「世界一のコミュニティー」と</b>なりました。</p>	



棚尾児童センター



毘沙門天

## (5) 旭地区

## ● 第1回 まとめ

「K（地域の良さ・強み）」では「高齢者が元気」、「人があたたかい」等の意見がありました。また「地域の子どもの関わり」等、地域全体で子どもを見守ることについての意見も多く挙げられています。

一方で、「P（地域の課題・困りごと）」に関しては、「交流の場がない」、「高齢化・高齢世帯の増加」等の課題が挙げられています。また、「町内会・老人会のなり手がいない」等、地域活動についての課題も挙げられています。

## ・グループごとの意見

日常生活での課題や人の活動（つながり）等、福祉に関わる内容に焦点を絞っています。

	K（地域の良さ・強み）	P（地域の課題・困りごと）
グループ1	高齢者が元気 民生委員さんが頼りになる、連携をしている。 東プラがあり、集まる場所がある。 年代でのつながりが強い。	世代を一つにまとめたイベントがなく、世代間の交流がない。 集まる場が少ない。 総合的にコーディネートする人がいない。
グループ2	コミュニティの連携力が強い。 気軽にあいさつができる。 安全なまち	高齢化・高齢者世帯の増加 外部交流が少ない。 核家族化と空き家の増加 行政頼みからの脱却
グループ3	中学生ボランティア活動がある。 元気な高齢者が多い。 県道の花植えを行っている老人が元気 小学校の運動会が地域と合同で実施している。 （3世代の交流） 小学生の下校時に見守り（スクールガード）を行っている。 青色パトロール車が巡回している。	消防団員等地域の担い手が不足 外国人が多く、交流の方法が分からない。外国人とのコミュニティの問題がある。 一人暮らしの方、障害者の声、子どもの意見を聞くところがない、声が届かない。 少子高齢化と空き家の増加 アパートが増え、地域の関わりが無い。 防災、防犯についてあまり考えられていない。
グループ4	学校行事を地域が一体となって進めている。 人とのつながりが強い。昔からの住民が多く、つながりがある。周りの人が温かい。 地域のコミュニティが充実、つながりがある。 日進みらいの会等ボランティア活動が活発 老人クラブ、高齢者が元気 地域のことを高齢者が知っている。 子ども達をパトロール（スクールガード）が見守っている。	町内会に入らない人が増えている。 少し離れた家が分からない。（交流がない） 他人まかせ・無関心な人が増えた。 空き家が増えている。 町内会等の役員のなり手がいない。

各グループの主な意見は、以下のとおりです。		
全体	民生委員さんが頼りになる。 高齢者が元気 近所同士の付き合いがいい。 青色パトロール車の巡回がある。 花植えボランティア、日進みらいの会の活躍	高齢世帯の増加、若者は都会へ。 町内会や消防団のなり手がいない。 世代間の交流が少ない。 集まる場がない。 外国人との交流の方法がわからない。

● 第2回まとめ

第1回で出した「K（地域の良さ・強み）」を活かし、「P（地域の課題・困りごと）」をクリアしながら、より良い暮らしをしていくために「望む暮らし」、「望む暮らしを実現するために自分たちにできること」、「実行していくためのスローガン」を各グループで考えました。

◇ グループ1 ◇

望む暮らし	自分たちにできること
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 趣味を活かした暮らし</li> <li>・ 笑顔いっぱい地域同士の交流がある暮らし</li> <li>・ 生きがいがあり、健康で暮らして長生きしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地区での伝統行事、祭礼やPTA、子ども会のイベントにたくさんの人が参加してもらえるようきっかけをつくる。</li> </ul>
【スローガン】 「様々なイベントを通じて地域が大家族となってつながる」ということから、 <b>地域の大家族計画</b> となりました。	

◇ グループ2 ◇

望む暮らし	自分たちにできること
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健康で明るく元気な暮らし</li> <li>・ 自分の趣味を持ち、生きがいのある暮らし</li> <li>・ 軽い運動をしながら学べる機会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参加できる行事を行う。（ラジオ体操、ペダボード等）</li> <li>・ まずは自分たちが行動して、行動を見えるようにする。</li> <li>・ 小さくてもモデルの活動をつくる。</li> <li>・ 県道の花植えに中学生と一緒に参加する。</li> </ul>
【スローガン】 「自ら率先して、笑顔であいさつをしていこう」ということから、 <b>花と笑顔とあいさつで明るい旭</b> となりました。	

◇ グループ3 ◇

望む暮らし	自分たちにできること
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地域の人や子どもと一緒に遊べる暮らし</li> <li>• 災害に強い地域になる。</li> <li>• 子どもを不安なく送り出せる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 若い世代でも無理なくやれる時に参加できる場をつくる。継続的に行事に参加してもらえるようにする。</li> <li>• 多世代が集まり、話し合いや、ふれあいができる場をつくる。</li> </ul>
<p>【スローガン】 「いろんな世代の方が地域で気楽に集い、つながることができるような場をつくる」 ということから、 <b>楽しく繋がる地域 cafe！！</b>となりました。</p>	

◇ グループ4 ◇

望む暮らし	自分たちにできること
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 健康で生きがいがあり、のんびりとした暮らし</li> <li>• 障害者や高齢者、子どもが安心して暮らせる。</li> <li>• 地域の人との垣根のないつながりがある暮らし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 様々な人同士での交流の機会を増やす。</li> <li>• 災害時の話し合いの場づくり、緊急時に備える。</li> <li>• 地域で隠れている人材を探し出し、育成する。</li> </ul>
<p>【スローガン】 「高齢者と子どもでふれあえるカフェから人がどんどん繋げていく」ということから、 <b>ふれあいカフェ</b>となりました。</p>	



広藤園



日進フラワーロード



## (6) 西端地区

## ● 第1回 まとめ

「K（地域の良さ・強み）」では「地区の行事もあり、つながりのある地域」、「あいさつがある」、「地域で防犯パトロールをしている」、「区長・副区長が常駐している」等の意見がありました。また「美化活動」等、生活環境についての意見も多く挙げられています。

一方で、「P（地域の課題・困りごと）」に関しても、「町内会に入らない人が増えている」、「地域の担い手等人材の不足」、「高齢単身世帯の増加」等の課題が挙げられています。また、町の不便な点や「交通手段」等、生活環境についての課題も挙げられています。

## ・グループごとの意見

日常生活での課題や人の活動（つながり）等、福祉に関わる内容に焦点を絞っています。

	K（地域の良さ・強み）	P（地域の課題・困りごと）
グループ1	団結力がある。 地域のイベント（ふれあいの機会）が多い。 地域の防犯パトロールが活発 区事務所に人がいる。 西端小学校の読み聞かせボランティアがいる。 子どもが挨拶をよくできる。 子どもの施設ららくるにしばたがある。	近所づきあいの減少、他の地域から来た人との交流が少ない。旧集落、新興住宅地、公営住宅の違い。 共働きが増え、日中留守が増えている。 外国人の増加と対応ができていない。 スーパーが遠い。
グループ2	散歩中に挨拶をしてくれる。 公園がある、運動できる場所が多い。 環境美化活動がある。 蓮如ウォーク 年寄り（男性）も仕事をする人が増えている。	若い方が地域の行事に関心が薄い。 新しい人が住んでも誰だか分からない。 スーパーがなく、高齢者の買物が困難 くるくるバスが不便 少子高齢化が進んでいる。
グループ3	話しかけてくれるお年寄りの方が多い。 子どもが挨拶をしてくれる。 多くの団体があり、活動に参加している。 畑のお年寄りは野菜作りの先生 地産地消を頑張っている。 いただきものの野菜がおいしい。 区長、副区長が常駐している。 班の単位が細やか。（小さな地域のまとまり） 青パト等見守り・防犯の体制がある。	気軽に集えるカフェのような場が少ない。 個人情報の壁が高く、つながりの障壁 旧市街地・新市街地のギャップが時にある。 お店がなくなり、特に高齢者は買物が大変 交通が不便 高齢化。次の担い手が少ない。 共働き世帯、日中不在の家庭が多い。 子どもの遊び場が少ない。
グループ4	6軒組の人が良く分かっている。 コンビニが近い。 子どもが遊べる公園がある。 福祉子ども応援団が活動している。子育て支援センターがある。 畑が多い。	ワンルームの賃貸に住んでいる人が、誰がいるのか分からない。 小学校まで遠い。（道中の心配） 障害者が働ける場所、施設が少ない。 高齢者世帯が多いので、高齢者を支える仕組みが必要となっている。 お店がなく、特に高齢者は買物に困る。 人材不足（福祉職員、専門職）

	K（地域の良さ・強み）	P（地域の課題・困りごと）
グループ5	<p>あいさつ運動                      地域で防犯パトロール                      野菜の譲り合いがある。（おすそ分けができる関係性）                      環境美化活動                      再青会で清掃活動をしている。                      区事務所に区長等が常駐している。                      多くのクラブ活動がある。                      交流する場が多い。</p>	<p>団体間の横のつながりが無い。                      気楽にくつろげる場所がもっと欲しい。                      外国籍の方の支援                      地域の役員不足                      買物に不便</p>
グループ6	<p>あいさつができています。                      協力的な人が多い。                      子どもからお年寄りまで思いやり深い地域                      個性の強い人が多い。</p>	<p>災害意識、関心が少ない。                      ひきこもりの人が多い。                      各団体が個々に行動、まとまりがない。                      一人暮らしの人が増えている。                      公共の広場が少ない。</p>
各グループの主な意見は、以下のとおりです。		
全体	<p>地区の行事も多く、人のつながりがある地域                      子どものあいさつがあり、すこやかに育つ環境                      自然があり、住みやすい。                      畑があり、畑を通じたつながりがある。                      地域の防犯パトロール                      区長・副区長が常駐している。</p>	<p>新しい住宅街はつながりが薄い。                      町内会に入らない人が増えている。                      人材の不足（地域の担い手が減っている。）                      少子高齢化、単身世帯の増加                      お店が少なく買物に困る。                      災害への備えの弱さ                      団体間の横のつながりが無い。</p>



油ヶ淵花しょうぶ園



生産が盛んなイチジク

## ● 第2回まとめ

第1回で出した「K（地域の良さ・強み）」を活かし、「P（地域の課題・困りごと）」をクリアしながら、より良い暮らしをしていくために「望む暮らし」、「望む暮らしを実現するために自分たちにできること」、「実行していくためのスローガン」を各グループで考えました。

## ◇ グループ1 ◇

望む暮らし	自分たちにできること
<ul style="list-style-type: none"> <li>・車に乗れなくても困らない暮らし</li> <li>・穏やかで安心、安全な暮らし</li> <li>・近所や地域の人たちとの顔の見える暮らし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・便利な情報を回覧板でお知らせ</li> <li>・困りごとを伝える、繋げる場所、人</li> <li>・ごみを拾う、顔をみたら一声かける。</li> </ul>
<p>【スローガン】 「まず挨拶をし、顔を知ってもらおう」「あたたかいおせっかいがいっぱい」ということから、 <b>ひるまずあいさつ 笑顔の西端</b>となりました。</p>	

## ◇ グループ2 ◇

望む暮らし	自分たちにできること
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもとお年寄りの交流の場を作る。</li> <li>・地域で見守りができる。</li> <li>・みんなで助け合えるつながりのある地域</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアへの参加、活用</li> </ul>
<p>【スローガン】 「ボランティアに参加し、人の繋がりで輪をつくる」ということから、 <b>誘って皆で やろまい西端!</b>となりました。</p>	

## ◇ グループ3 ◇

望む暮らし	自分たちにできること
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や近所の人同士が仲良く暮らせる。</li> <li>・世代間の交流がある暮らし</li> <li>・頼り頼られる関係の中で、安心な老後の暮らし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再青会の人にお話を聞く場、地域で話し合える機会をつくる。</li> <li>・団体のつながり、発表の場を継続する。</li> <li>・環境保全会と親子の交流、お年寄り野菜の先生</li> </ul>
<p>【スローガン】 「地域との関係を密に保ち、頼り頼られる地域に」ということから、 <b>つながっていくんだ“わ”（和・輪） ザ・西端</b>となりました。</p>	

## ◇ グループ4 ◇

望む暮らし	自分たちにできること
<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心安全な暮らし</li> <li>・楽しみや生きがいのある暮らし</li> <li>・遊びや学び、体験ができる場所がある暮らし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に住んでいる人をみんなで（が）知る。</li> <li>・防災意識を高める講習会（障害者や高齢者に向けたもの、HUGを実施）</li> </ul>
<p>【スローガン】</p> <p>「防災意識を高め、近所にどういった人がいるのか把握する」ということから、  <b>挨拶の輪でつなく 安心・安全な西端</b>となりました。</p>	

※HUG…H→避難所 U→運営 G→ゲーム

## ◇ グループ5 ◇

望む暮らし	自分たちにできること
<ul style="list-style-type: none"> <li>・明るく元気で楽しく暮らす。</li> <li>・やりがいのあることをする。</li> <li>・健康な体でうまく歳を重ねたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体同士が繋がる機会づくり</li> <li>・（課題で出てきた、外国籍の方の支援のために）フラダンスを通して外国籍の方を町の人に知ってもらう。</li> </ul>
<p>【スローガン】</p> <p>「外国籍の方もフレンドリーに」ということから、  <b>友達いっぱい 楽しい暮らし</b>となりました。</p>	

## ◇ グループ6 ◇

望む暮らし	自分たちにできること
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のつながりを持ち住みやすい暮らし</li> <li>・健康で、趣味を楽しめる生活</li> <li>・中学生と防災活動ができる関係になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども向けイベントにより、若い世代を集める。</li> <li>・各団体の活動を知り、つなげる。</li> <li>・地域の学生や老人会、防災ボランティアが防災活動を行う。</li> <li>・地域で困っている人を助けられるような講習会（手話等）をする。</li> </ul>
<p>【スローガン】</p> <p>「人と人、団体と団体をつなげて活動を活発に」ということから、  <b>人と人の輪を広げ、安心安全な地域を作ろう！</b>となりました。</p>	

# へきなん地域福祉ハッピープラン 第2次碧南市地域福祉計画

平成28年3月

---

## 発行

碧南市  
社会福祉法人 碧南市社会福祉協議会

## 編集

碧南市 福祉こども部 福祉課  
〒447-8601 愛知県碧南市松本町28番地  
電話：0566-41-3311（代表） ファックス：0566-48-2940  
<http://www.city.hekinan.aichi.jp/>

社会福祉法人 碧南市社会福祉協議会 地域福祉課  
〒447-0869 愛知県碧南市山神町8丁目35番地  
電話：0566-46-3702（代表） ファックス：0566-48-6522  
<http://www.hekinan-shakyo.jp/>

